勢陽五鈴遺響　多氣郡　三十

和書門 類 二九〇一九 號 函 架 四〇 冊

内閣文庫 和書 類 二九〇一九 號 四〇 冊 一七二 函 三一〇 架

内閣文庫
番號 和 29019
冊數 40（30）
函號 172 310

国立公文書館
National Archives of Japan

勢陽五鈴遺響多氣郡巻之壹

多氣郡

名義ハ田村郡[illegible]

多ハ頻[illegible]殺テ多氣ト[illegible]

故ニ和名類聚抄ニ多氣郡[illegible]附[illegible]讀

ミ多氣ニ加訓清音ナルヘシ古事紀[illegible]之多氣[illegible]

音ヲ訓ス[illegible]讀テ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内 一〇七二五號

勢陽五鈴遺響多氣郡巻之壹

多氣郡 多氣ト称スル名義ハ田竹郡ニシテ後ニ
字ニ填ス為ニ字ヲ假テ多氣ト称スルナリ其
故ハ和名類聚抄曰多氣郡竹ト多訓ヲ附タル
音カ如ニ多氣ハ旧訓清音ナルヘキヲ後世ニ濁
音ニ訓スルハ謬ナリ古事紀曰速摩之多氣佐
婆夜遅奴美神多氣ハ健及武ト同ク健御雷ノ
如ク武健ノ意ト同ニ武ハ清音ナリ或ハ續紀
本紀ニ伊勢国多氣郡及碊部恩国又多藝ト假
字モ填ルモアリ氣勢通音スルニ拠テ美濃州
當藝郡及當藝野等ニ藝ヲ伎ト訓ス多伎ニメ

多氣ニ非ス非ナリ既ニ倭姫命世紀曰竹連吉
彦等尓仰給互先穂拔穂令拔半分大税尓令苅
皇大神乃御前尓懸奉又磐余甕栗宮三年乙于
本服織社令織大神御衣難波長柄豊崎宮乃御
宇丙午年竹連磯部直二氏建此郡焉或竹田国
ト称メモ多氣ノ字ニ拠レリ同書注曰入彦五
十狭茅天皇二十二年癸丑冬十二月七八日迁
飯野高宮奉斉四箇年中略太若子命手汝国名
何ト問給白久百張蘇我国手々五百枝刺竹田
国答白支其所尓御櫛落給支其所乎櫛田止号
給和名類聚抄ニ多氣郡櫛田郷ニメ竹郡竹田
ハ櫛田ソ旧名ナリ御櫛落堕セシヨリ櫛田ノ

名起レルハ明ナリ然レハ諸州ノ郡名ハ後ノ
名ク処ニメ上世ハ郡名ナシ故ニ竹郡或ハ多
氣郡ト称スルハ五百枝刺竹田ヨリ起ル名ニ
メ竹郡ハ此ニ拠レルナルヘシ五百枝刺ハ冠
辞ナリ飯高君ノ遠祖乙加豆知命ノ飯高ト答
セシヨリ飯高郡名ノ起ルカ如シ或ニ竹ノ郡
及竹都竹宮

夫木集　俊頼

たまくしけ竹の都をかすミ川住連の内なる浄代のすゑ哉

新勅撰　中納言兼輔

くれ竹の世々の都と聞からに君かちよとは世のうらもなし

夫木集　俊成

竹林宮よりはしまりて千代まても祝ひそめたる人は君そこれ
名所拾遺注云多氣郡ニ斎宮ヲ建斎内親王一
シニス故ニ竹ノ都或ハ竹ノ宮ト名ク神宮雑
例集云斎宮寮在多氣郡竹郷仍テ親王及乃親
王ヲ竹園ト称メ兼好カ徒然草ニモ竹のその
ふのすゑ葉まても親王ヲ諷称セシヲ倣テ斎内
親王ノ斎居ニシニス地ナレハ竹郡及都宮ヲ
名ヲ称スナリト云ハ大ニ臆説ナリ今諳ルニ
倭姫命世紀曰大足彦忍代別天皇纒向廿年庚寅
歳倭姫命年既ニ老耆不能仕吾足奴止宣天斎
内親王仁可仕奉物部八十氏人之定給天十二
司寮宮等遠波奉移五百野皇女久須比賣命即

春二月辛巳朔甲申遣五百野女於皇大神乃御
杖代止志天多氣宮造奉天令侍給支始多氣郡
ニ斎宮寮ヲ所置ナリコレヨリ嚮ニ垂仁天皇
二十二年已ト五百枝刻竹田国ノ名アリテ竹
郡ノ名起レルニ似リ竹郡ニメ所置ノ宮室ノ
所有ナレハ後ニ竹都及竹宮ハ名ケタルコハ
必セリ又雑記所謂往昔天香久山ノ竹ヲ移栽
ケル故ニ竹ノ都ト名クナリト云云ハ荒唐ノ言
ニメ不足論ナリ故ニ多氣郡ハ世紀所謂竹
五百枝刻竹田国ノ略ニシテ竹郡ノ假字ナリ
上世ヨリ起ルトコロノ名ナリト識ルヘシ
受領

續日本紀第廿三天平宝字五年六月己卯賜正
五位下飯高公笠目藏毗登於須美從五位上熊
野直廣濱多氣宿祢弟女多可連浄日並進一階
仝第二十八神護景雲元年四月癸巳伊勢國
多氣郡人外正七位下敢礒部忍国献錢百万絹
五百疋稲一万束授外正五位下仝第三十三
宝亀五年五月癸巳朔伊勢国多氣郡人正五位
下敢礒部忍国等五人賜姓敢臣日本後記第
四延暦二十年冬十月丁未大政官符應加決罰
神郡司事右得伊勢国解偁調庸租税例勘徵
而多氣度會二郡司独頼神事敎致闕怠望請神
界之外特加決罰者右大臣宣奉勅依請三代

實録第廿四貞観十五年十二月二十七日戊午
伊勢国多氣郡人從五位下阿閉臣次子從七位
下河邉臣雄継等賜姓朝臣其先出火産命之後
也神鳳抄云多氣郡一段並宮御倉作内人徳
成労同所載有名未識神封外宮四蘭生御園
六斗内宮栗井御園内宮亭保御園内宮下
津竹御園内宮當下御園橋木御園内宮
石取御園内宮鉢尻御園内宮藤迫御園
家垣内御園青泉執御園竜方御園二俵
御園矢田御厨堺御園佐久良御園内
宮冨墓御厨片岡御園中河原御園平尾
御園外宮尼山御園美佐御園外宮神領

目録所載未識神封　四園生御園六月菓子九
月三斗十二月三斗　外宮庄園御園米一斗十
二月御祭時備進之　石取御園上分一貫文
熊倉御園上分米三斗光香口入　神鳳抄ニ由
薗生神領目録ニ四園生ニ作ル四薗生ハ飯高
郡枚坂ノ部ニ收ムトイヘトモ今考ルニ神領目
録ニ園ニ作リ各神貢六斗ナリ然ルトキハ神領
目録ニ從ヒテ四園生ノ真トスヘシ在処未詳
和名類聚抄第六多氣郡 竹 相可 阿布加 有
爾 宇介 多氣 多介 麻續 乎宇多 今音ニ乎宇美ノ
誤ナリ 三宅 美也介 流田 多奈加礼 櫛田 久之多
今詳ニスルニ相可今相可アリ旧名相庶ナリ

有爾今直ニ宇尓ト録メアリ多氣今ノ斎宮竹
川等アリ麻續今ノ飯野郡井口アリ三宅丸倉
ハ地ニメ郡司ノ所居ナリ其地未詳　流田今
ノ長田郷ト同ク清水朝田等ナリ櫛田今飯野
郡櫛田アリ流田櫛田ノ二郷ハ今飯野郡ニ多
ク隷レリ上世ハ異ナルニ似タレトモ恐クハ多
氣飯高飯野ノ三郡ハ後ニ割分テ飯野ヲ所置
ナレハ郡ノ差セテ誤リ入タルモアルヘシ故
ニ和名類聚ノ如キモ錯乱ナキニ非ス古今ノ
異トノミ惟フニ非ルヘシ古屋草紙等兄国
郷或ハ田辺郷ヲ加隷セシアリ非ナリ兄国ハ
郷ハ飯野郡ニ隷ノ本郡ニ非ス然トモ又今飯

野ニ非ス本郡ノ村名ナリ今古ノ錯誤ナリ田辺ハ度會ニ隷レリ　本郡疆域ハ東ハ海瀕ヲ限リ西ハ大和州吉野郡及添下郡界ヲカギリ南ハ度會郡界ヲ限リ北ハ飯高郡及飯野郡界ヲ限レリ東西十八里南北二里餘　本郡界域行程ハ本郡大杉ヨリ大和州吉野郡塩ノ葉村ヘ国堺ヨリ三里廿町大杉本邑ヨリ八里十二町方俗カンカウキ越ト称ス嶮難牛馬不通吉野郡大臺原巳ケ淵ノ北位ヲ通ス又大杉ヨリ紀伊州牟婁郡河内村ヘ七里嶮難牛馬不通又大杉村ノ属邑檜原ヨリ同州牟婁郡長嶋ヘ山路アリ嶮岨牛馬不通春日峠ノ南位ヲ通ス春日越ト称ス　本郡滝谷カヾスリヨリ奥大杉ニイタリ二里三十町奥大杉ヨリ大和州界大臺峯ニイタル三里三十町度會郡小俣ヨリ大臺峯ニ至リ直程十五里十二町コレ紀州領内ノ檢地ナリ同小俣ヨリ本郡瀧谷カヾスリニ至ル八里二十一町

村邑　文禄三年檢地　八十二村

正保二年　百五十村

明暦二年雜記所載　百三十三村外小邑八村

元禄十三年　百七十四村

今計百十六村　外小邑七十五村

通計百九十一村

正税高

文禄三年検地 四方千六石八斗八合

雑記所載 三万八千二百四十九石五斗五升四合

内 二万三千八百六十四石六斗三升七合田方

一万四千三百八十四石九斗一升七合畠方

外 千三百七十石五斗二升六合 新田

元禄十三年 四万二千三百九十石七升三合

大杉

大杉本郡ノ極西界ニシテ大和州吉野郡ニ隣レリ高嶺幽谷ノ間民居ス諸本奥大杉ト称ス其故ハ久豆岩井檜原ト同ク四邑ヲ大杉谷ト称ス此ニ准ヲ其深奥ノ処ニ居ス故ニ奥大杉ト私称ズルナリ 属邑石原アリ 正税十六石紀州田丸領ナリ

大杉谷野尻ヨリ順路 滝原宮ノ川上ヨリ川ヲ跡リ川合村下菅上菅木屋コレヨリ川ヲ渉リ赤滝清水本田木屋小切畠江馬ヨリ申位ニ日天八王子社正面鳥居次拝殿其右小祠正面五社コレヨリ茂原熊内天鹿瀬・野尻ヨリ三里天瀬ヨリ滝屋ヘ二里タキヤヨリ大熊谷カヾスリ 滝屋ヨリ一丁許イタリ宮川水源大川ナ左ニ望ミ右ノ傍ニ大滝アリ滝ケ谷ト云里俗セリイノ滝トモ云又口定滝トモ云口定明神ヨリ七丁前ニアリ滝南向ニ落ル高七八

尺許濶六七間タキ坪三間四方六七尺巨岩ア
リ此辺ノ大河ニ温石ヲ産ス次口定明神大河
ノ右傍ニ入テ石階アリ制札アリ奥定明神モ
同断南社境内堅被禁止殺生託違犯之輩有之
者可為曲事者也享保八年九月日奉行連署ア
リ口定明神社内左新殿本社石ニ並ヒ古殿正
面鳥居口定明神ヨリ奥定ヘ至ル南位三里半
此処ヨリ奥定ヘ谷川ヲ経ルヿ十五六ケ処此
処ヨリ大和国吉野郡塩ノ八村ヘ山路アリ此
処ヲ大和谷ト称ス口定ヨリ大河ヲ左ニ望テ
水崖ヲ攀上ルヿ八丁又左ニ大河ヲ望右傍ハ
谷川アリ父ケ谷ト云渓水ヲ渉リ右傍ニ中定

明神坐ス大川岸ヨリ半町許山登ル処二社ア
リ大杉ヨリ八丁中定明神正面鳥居本社卯辰
位向左ノ傍ニ高一丈許濶一丈二三尺巨岩ア
リ此辺大河ヘ望テ大岩数箇アリ各大サ五六
間七八間ナリ川岸ニ臨突出ス岩ヲ俗杖ツア
ス岩ト云又駒ノ足跡ト云アリ馬蹄ノ形石面
ナ隠起ス里俗奥御前休息処ト云此処ヨリ一
丁許至リ大河ヲ渉リ又山ニ登リ右傍ニ大川
ヲ望ミ七ミリ岩大川ノ南ノ岸ニアリ其次ニ
倉本谷精ミ谷ホヲ踰テ此処ヨリ奥定明神ヘ
一里此間ニ檜縄木屋タハノ木谷此処直道ハ
大杉ヨリ紀州熊野ヘ踰ル道ナリ右ノ小径ハ

奥定ニ至ルニ谷ニ下リ谷川ヲ渉リ又山ニ上
ルヿ一丁許是余木谷也又大河ノ南ニワタリ
右ニ大河ヲ望ミ大口谷ト云川原三四丁許歴
テウクヒス谷ニ至リ右ニ望テ又大河ヲ渉リ
川原ヲ登ルヿ一丁許又大河ヲ南ヘ渡リ右ニ
大河ヲノソミ川原ヲ歴テ又大河ヲワタリ左
ニ望ミ又谷川ヲ渉ル五六処アリコレヨリ大
カイト、云左傍ニ炭焼道アリ字ハアナギト云
処領主紀州炭役所ナリ奥定ヨリ二里又タハ
ノトコトニ右ノ河中ニ大宮アリ大具谷ノ内
ナリ其次奥定明神入口拝殿アリ三間四方許
ソノ処ヨリ川岸ニ下リ手水場ナリ其川ノ向
ニ大宮アリ高百間許ナリ濶二丁許其岩腹ニ
石窟アリ弁才天ヲ祭ルト云石ヲ切テ祠ノ形
アリ手水河ヨリ一丁許山ニ登リ又三丁許山
ニ登リテ鳥居石階アリ其上ニ制札アリ口定
社ニ同案ヲ文ナリ

式内榎村神社　同処ヨリ三里河上ニノ七ツ釜
滝ノ麓山澗ノ間座ス方俗奥定御前ト称ス未
詳俗習ニ倣テ姑ク此ニ標出ス　度會延經神
名帳考證云榎村神社大屋津姫命日本紀云大
屋津姫命能分布木種美濃国恵奈神社遠江国
矢奈比賣神社按江馬大杉払江与榎同訓馬子
女語通今江馬山奥定村今属多氣郡　度會正

身神名帳再考證ニ榎村神社考證ニ榎村ヲ江馬ト云ハむらノ切ナリ社アル処ノ江馬山ハ大杉谷ノ奥定村ナリト猶未ノ荻原神社ノ條ニ記セリ今詳ニスルニ延経考證ニ榎村神社ノ名義ニ拠テ神名式内ノ美濃国恵奈神社ハ恵奈榎ト同訓遠江国矢奈比賣神社矢奈モ恵奈ニ同ク榎ト訓通スルカ故ニ矢奈比賣ト云ハ大屋津姫命ヲ此ニ祀ルト云引拠ニメ日本紀ニ五十猛命ノ妹ニメ能ク木種ヲ分布スルノ義ヲ摘テ此出遂山林ノ間ニ奉祀スル処ニ寓シ猶江馬ノ名江ハ榎ニ同訓馬ハ女ト通ス故ニ矢奈比賣ノ社アルニ拠テ江馬ト

地名ヲ冒スニ取レリ其江馬ヲ山ニアル奥定村ニアル神社ナリト云解ナリ正身考證ハ考證ニ榎村神社ノ名ニ拠テ江馬ト云村ハ反切ノ馬トナル故ナリ前考證ニ従ヒテ此ニアル処ト、ノ後號荻原神社ノ條ニ弁セリト云釈ナリ愚按ニ合牽強附會ニメ僻説ナリ非トスヘシ江馬ノ名天正四年繪馬某任ス其砦アリ国司北畠家ノ臣ナリ旧否ニ繪馬ト書ス或ハ北條氏族江間小四郎義政ノ裔孫ナリトモ云孰レ江馬ハ其居宰スル処ノ士ニ拠テ後世名クル処ナリ上世ニ村邑ノ存スルハ其微ヲ得ス猶江馬ヨリ二里餘ニメ口定明神アリ即

本郡久豆村ナリ此ヨリ三里廿五丁許ニシテ
奥定明神アリ通計五里廿五丁餘ニシテ山溪幽
僻ニアリ然レハ江馬山ニ非ス江馬ニ非レハ
前考悉ク的當シ難シ再考證此ニ従フトキハ非
トスヘキナリ其餘後人ノ所定式社案内記及
古屋草紙勢陽俚諺等其類ヲ倣フモ合僻説ナ
リトス然レドモ其地ヲ今考究スル処ナシ此榎
村神社ノミ本郡二見郷松下村ニアリト謂ヘ
シ其故ハ延喜式内五百廿五座今所撰定ス
ル処ノ式考ト郡邑ノ差多シ其廃スルニ及テ
遺失シ牽強ニ及フ処モ若干ナルヘシ然レドモ
其徴ノ真トスヘキ暗合スル処モ不尠トスヘ

シ松下村ト江村ノ間ニ牛頭天王社アリ其地
ニ往昔榎村ト称スルアリ廃シテ今ソノ地ニ近リ
テ山頭松樹間ニ居スル故ニ松下ト名ヲ革ムト
村老ノ話ナリ此榎村ノ名即榎村神社ニ合ス
猶延喜式神社ノ列序ハ混駁ニ似トイヘドモ又
其次ニ載スルモ多シ度會郡五十八座ノ中江
神社神崎神社朽羅神社榎村神社度會國御神
社ニ次第ス江神崎度會国御神社合二宮ノ域
内及二見郷ニアリ朽羅神社ハ旧九城南東原
村ニアリ合皇大神摂社二十四座ノ中ニシテ
煥然其地ヲ誤ナル処ナリ然ルニ其列ニ次ス
ルトキハ牛頭天王ノ地ナリ此神社トスヘキモ多

ク非トスヘキニ非ス今二見郷ニ存スル式社
及摂社ハ皇大神迎幸ノ時定祝ナリ此榎村神
社奉祀ハ旧典ニ考ヘキナシ未至當トシ難シ
猶考ヘシ故ニ此ニ所祀ハ未其徴ヲ得ス姑ク
闕如タリソノ名ハ俗習ニ倣テ此ニ挙ル処ナリ
式社案内記祭神大屋津姫命トスコレ考證ニ
従ヘリ其社域ノ在ル処ヲ未詳故ニ此ニ祭神
ヲ標トスヘキ由ナシ猶後號荻原神社ノ條ニ
ソノ是否ヲ悉ク辨セリ併瞥シテソノ真ヲ得
ベキナリ

大臺峰　大和州吉野郡ニ跨テ本郡ハ西ニアリ
豊宮川ノ水源ニメ万嶺千谷ヲ濇リテ巨河ト
ナル奥谷川宮滝　千尋滝ニ飛滝　大滝
光ケ瀧七ツ釜等ノ溪川一派トナリ大杉ニ
イタリ行程二十里ヲ流テ東海ニ入ル

大熊山　大杉ノ内岩井ノ乾位ニアリ　白倉山
大杉ノ内久豆ノ乾位ニアリ　春日峠大杉内
檜原ノ南ニアリ　池谷山内ニ池ノ木屋山奥
大杉ノ乾位ニアリ　不動山　西谷山　栗谷
山　蒔画文字山　地池山大杉ノ西南ニアリ
合高嶺ニメ大和州吉野郡界ナリ

久豆　大杉ヨリ東一里ニアリ大杉ノ内ナリ
属邑向原新屋敷アリ
式内荻原神社　前華ロ定明神ニ充ツ非ナリ社

地未詳　方俗口定御前ト称ス　延喜式度會
郡ニ録レリ　定清屋社料高五石紀州領主ヨ
リ免許　八王子同処ニアリ高六石七斗四升
同領主ヨリ免許　度會延経神名帳考證ニ荻
原神社素盞烏尊文徳実録ニ天安二年二月伊
勢国葭原神預官社按荻字作葭是手阿志加
知言通此神名出自我勝之語出雲風土記神須
佐能表命大須佐田小須佐田定給大杉山称定
御前葭原神社手上署須字佐田作定今爲多氣
郡　度會正身神名帳再考證ニ荻原神社考證
ニ文徳実録ニ天安二年伊勢国葭原神社預官
社トアリ荻ハ俗諺ニ難波ノ芦ハ伊勢ノ濱荻
トイヘハ相通スヘシ此社地前ノ榎村神社ト
同地方角ニテ大杉谷江馬山ノ口定村ニアリ
埜ノ人家ヨリ二里山中ニアリ又榎村社ノ所
在奥定村ハ相距ルヿ一里半共ニ深山幽谷ニ
テ人跡絶シ陰闇ノ地ナリ是ヨリ長嶋ノ人家
ニ近シ祭神荻原社ハ草祖草野姫榎村ハ不ノ祖
句々廼馳ナルヘシ考證ニ大屋津姫ノ記セル
ハ五十猛命ノ御妹ニテ日本紀ニ能分布木種
トアレハ榎村社或ハ此神ヲ祀ルナルヘシ奥
ロヲ今上定村下定村トニス佐田ノ御前トモ
イフ何故ヲ不知　今詳ニスルニ延経考證ニ
荻原神社ノ名ハ文徳實録巻十ヲ引徴ノ文徳

天皇天安二年二月甲子朔丙戌在伊勢国正六
位上葭原神官社ニ預ルト載テアルニ拠テ萩ノ
字ハ葭ニ作ルヲ是トスヘシ河志ハ加知ト言
通スルニ拠テ此神ニ五勝ヨリ出ルノ名ナリ
出雲風土記ニ神須佐能表命ノ大須佐田小須
佐田定メ玉フトナリ其佐田ハ多氣郡大杉山
定御前ト称ス神社即葭原神社ナルヘシ須佐
田ノ須テ上畧シテ定ニ作ルト云ニ拠トシテ
風土記ニ拠リ祭神素盞烏尊トスト云注ナリ
正身再考證ハ萩原ハ伊勢濱荻ノ俗諺ニ従ヒ
テナギモヨシモ相通メ称スヘシ此社地前條
榎村神社ト同方位ニシテ大杉谷江馬山ノ口
定村ニ在又榎村神社ハ考證ニハ奥定村ニア
リ萩原ハ祭神草津姫榎村ハ句々廼馳ナルヘ
シ榎村神社大屋津姫ヲ祀ルト記セリ此神分
布木種ト日本紀ニ載レハ或ハ大屋津姫ヲ祀
レルナルヘシ今上定村下定村ト云佐田ノ御
前トモ其本拠ヲ不知ト解セリ愚按スルニ前
考證ニ出雲風土記ニ所出大須佐田小須佐田
上畧メ佐田ノ據リ今大杉山定ノ御前ト云ニ
同ク此ニ拠テ此ニ所在ノ神社トメ素盞烏命
ヲ祀ルトス神須佐能表命ノ定給フト云文ニ
拠レリ台牽強ニメ此地ニ徴トスヘキナシ再
考證合前考證ニ従ヒテ大杉谷江馬山ノ口定

村アリ麓ノ氏家ヨリ二里ニ及フ猶榎村神社ハ奥定村ニアリ口定ト相距一里半奥口ヲ上定村下定村ト云ト解注スルハ合非ナリ其故ハ考證ニ荻原神社ニ填テ口定明神ト称スルハ江馬山ニ非ス江馬村ハ往昔或ハ繪馬ト書ス三瀬谷天ケ瀬村ノ隣邑ニアリ稍ク三町許ニメ天ケ瀬ニイタル此ヨリ明豆御棟木小滝神滝滝谷岩井擶原ノ八村ヲ歴テ久豆村ニ至ル此ヨリ十町許以西ニ大徳院アリ又西ニ相距テ十町此処ニ方俗所稱口定明神或定ノ御前ト云社アリ江馬ヨリ二里餘ニ及ヘリ又大徳院ヨリ掊丁久豆ヨリ廿町許西ニアリ又久

豆ヨリ一里以西ニ奥大杉村アリ村邑ヨリ十五町許ニ口定明神ト称ス社アリ明暦中ハ之ニト云奥大杉ヨリ三里許西位ニ奥定明神ト称スアリコレ考證榎村神社ニ充ル処ナリ口定ハ昏月詣人アリ然レ氏僻地ナレハ希ナリ中定ハ又人ノ詣スルモ至テ希ニ〆奥定ハ絶テ常人ハ至ラス幽僻ノ地ナリ院ニ豊宮川ノ水源ニメ童山峩々絶岩相聳テ深邃ニメ民居スヘキナシ然ルニ再考證所言ノ奥定口定ノ村名曽テナシ考證榎村荻原ニ社ヲ此地ニ処スルハ甚怪ムヘシ合其地ヲ不閲ノ紙上ノ談多レ猶傳聞スル処ニメ其真ハ究メカタシ怨メ

本州所有ノ式社名其地ハイマタ其是否ヲ尽
サヽルニ拠テ自其地ヲ考索シ社司村老ニ鞠
問シ旧典群籍ニ明正シ跋渉ヲ最トメ考究ス
トイヘトモ其疑否ナキニ非ス跋渉スル者多キ
故ニ未詳トスル処若干ナリ其履歴セスシテ
幄中ニ座シ其真ヲ究メントスルハ妄ナリト
スヘシ猶當今ニ考證式社案内記等ニ拠テ其
社其神ヲ定メテ詣スルモノ二三ニ及ヘリ名
其否ヲ不徴メ此ニ至ルハ甚歎スヘキナリ凡
本州二百五十三座延喜式ニ隷スル神社ノ中
ニ桑名郡多度神社ノ如キハ名區ニシテ更ナリ
其餘員弁朝明三重等ハ其地狭小ニシテ幽僻ノ
地ニモ神社ノ配スル多シ三重ヨリ以南鈴鹿
河曲奄藝安濃一志等ハ幽僻ノ地ニ有スルハ
ナシ鈴鹿片山神社ハ官道ナルカ故ニ鈴鹿山
中ニアリ飯高多氣度會三郡ハ東海ヨリ西岳
ニイタリ其郡狭長ナリ然ルニ倭名抄ニ飯高
ハ丹生郷ヲ限リテ以西ニ郷名ナシ多氣郡ハ
相可ニ限リテ西位ニナシ本郡ハ田丸城隅ニ
尽テ西位ニナシ上世ハ郷名アル故ハ其村里
居民ノアルカ故ニ名アリ其郷名ナキ地ハ山
林曠野トスヘシ神社モ然リ居民ナキ地ニメ
建置及祭奠スヘキ由ナシ猶和名抄ハ天長年
中所撰ニメ延喜式ト奉勅撰同時ナリ其郷名

ニ從ヒテ神社モ存スヘキトイフヘシ然ルニ
此榎村荻原ノ二社ヲ此ロ定明神ト芫ルハ民
居ハ更ナシ上古ヨリノ名社ニモアラスシテ
此僻此ノ地ニアル処ヲ強テ其考索モ不得メ
式社ニ當ルハ必ス的トスルコトカタシ恐クハ
非ナリ牽強ノ甚トイフヘキナリ猶延喜式ハ
度會郡ニ隷セリ今此二社ハ多氣郡ニ係レリ
然レトモ餘社ニモ其郡界等ニ近ク及飯野多氣
度會ハ後世ニ沿革ノ地アレハ延喜式ニ差互
スルモ多シト憶ヘリ然レトモ此書遠ノ地ニ此
二社ノミ存メ多氣ニノ度會ニ混スル地ニア
ラス猶飯高ハ隣比ストイヘトモ丹生ヨリ以西

ニ式社ノ例ナシ餘郡ノ式社及和名抄所載ノ
郷名等今ノ官道海涯ニハ多シ取テ此遠ノ地
ニ所在ニアラス然ルトキハ混駁スヘキナシ延
喜式度會ニ隷スルトキハ此二社此地ニ存スト
シ奇ナルトイフヘシ其時世及地方ヲ考索メ
其否ヲ知リ漫ニ前説ニ從ナルヲ嘉賞スヘキ
ナリ後昆前ニ惑テ誤ルヘキヲ恐懼ノ式社總
論ハ首編ニ述スト云ヘトモ重復メ此ニ及ヘリ
榎村神社ノ名ハ村邑アルノ地ニ存スヘシ荻
原神社ハ河涯海瀕ニアルヘキ名ナリ各此山
岳此邃ノ地ニ存スヘキニアラス惣メ神社ノ
名ハ其地方ノ名及其祭神ノ徳表ヲ挙テ名ク

ルナリ各他社ヲ例メ考知ヘシ此ニ拠ルトキハ
此ニ合ハスト云トイヘトモ卓説ナリ古屋草紙
云大杉村ノ條ニ佐田国生神社素盞烏尊ヲ祀
ル迁宮ヨリ迁宮マテ詣人ナシ因九ヨリ十三
里アリト云考ルニ本郡田丸城東ニアル狭田
国生神社ノ名ヲ混シ佐田村ト云旧名アルニ
拠リ又訛テ佐田ヲ定明神ト充テ誤レルナリ
安誕ナリ狭田国生神社ハ祭神モ異ナリ然ル
ニ考證ニ此社ニ素盞烏尊ヲ奉祀スルト云ニ
稍ク倣ヒタルナルヘシ名非ナリ猶前條榎村
神社ト荻原神社ハ其社地ヲ未詳然レハ祭神
モ然リ故ニ各條ニ出ス処ヲ不知カ故ニ遊ク

此ニ標出メ後惑ヲ解ニカ為ニ挙ル処ナリ前
條榎村神社ノ條ト併暫スヘシ

大善院 同処ニアリ往昔大徳院徳壽傍官ト
云ヘル修験山伏アリテ此社ヲ守リ住ス故ニ
今ニイタリ大善院ヲ宮別當ノコトク執行セ
シム又其後杉原左衛門ト云祢宜今ヨリ三四
代目続スト云村老ノ話ナリ

檜原 尖豆ノ巽位ニアリ一里大杉ノ内ナリ紀州
牟婁郡長嶋ヘ山路アリ 属邑倉ケ平三軒
屋 古ケ野アリ

岩井 檜原ヨリ東十六町ニアリ大杉ノ内也
属邑砂 後谷 細渕アリ同処七八丁東ニ地

地茶屋ト云茶屋店アリ

滝屋　岩井ヨリ一里半東ニアリ　正税二十三石紀州田九領ナリ　扇邑小又新田　平野アリ或ハ滝谷ニ作ル岩井ト本邑ノ間大熊谷大河ノ岸ヲカヽスリト字ス桟道アリ断崖ノ処ニ階子ヲ架ノ樵夫民居往還ス俗諺云畜牛ヲ犢ノトキ抱テ其嶮路ヲ歴ニ大杉ノ四邑ニ畜フ長ノ後死ストイヘトモ其地ヲ更ルヿ非ス稍ク一人ヲ通スヘキノ路ナリ所謂蜀ノ四川ノ桟道ノ如シカヽスリノ謂ハ踵ヲ方俗カヽトト云稍ク踵ヲ摺テ嶮難ノ崖路ヲ起ルノ意ナリ本州此餘ニ斯ル幽僻ノ地ハ多ク非ス故ニ甚嶮ヲ称スナリ然ルニ四五十年以後岩石ヲ碎キ道路ヲ造リ掛橋ヲ巧ミ通路ヲ其地ニ闢ケリ然レトモ嶮路ナリ此間水谷川崖ナリ八知山名トモ云アリ外ニ此路ヲ避テモ道アリ嶮ナラス牛馬ヨク通スヘシ然レトモ遠ナルカ故ニ此路ヲ行人ノ為ニ闢ケリト云道傍ニ地藏堂アリ

大井滝屋　巽位河ノ向ニアリ正税三十二石紀州田九領ナリ此地ヨリ奥大杉奥定明神ニ到リ七里滝屋ヨリ假橋アリ大杉川ニ架ス

南村　大井ノ東ニアリ　正税二十八石紀州田九領ナリ大井ノ間大杉川滝アリ　扇邑本土

野新田アリ
神瀧　滝屋ノ東ニアリ　正税三十五石紀州田
九領ナリ　属邑添小屋アリ　明暦中図ニ芦
屋小屋アリ今已ニ添小屋ヲ謬ルヘシ凡テ
本郡及度會郡ニ他郡ニ新田或ハ出屋敷ト称
スヲ木屋ト称セリ新田等ノ耕耡ノ地タカラ
ス故ニ樵夫及伐木ノ杣小屋ニ比シテ其木屋
ト称ス地多シ滝谷神滝小滝等ノ名アルハ此地大
杉谷ノ末流豊宮川ノ水源ニシテ溪川ソ激流ノ
地ニアリ故ニ名ク本邑ノ東ニ一里塚アリ
村口山ノ神社ノ前ヨリ左ヘ下リ一丁余凡六
七十間南ニ太常アリソノ東ニハシカミ谿此
処ヨリ小滝ヘ踰ルナリ
小滝　神瀧ノ東ニアリ　正税六十九石紀州田
九領ナリ　大村谷越トニアリ岩井ヨリ二里
余滝ノ谷滝ノ上ニアリ社アリ宮ノ滝ト称
ス
御棟木　小滝ノ東ニアリ　正税二十六石紀州
田九領ナリ　御棟木ノ名称ハ往昔大神宮遷
宮造替ノ棟木ヲ伐出タル地故ニ名ク
唐櫃　南村ノ東ニアリ　正税百廿六石紀州田
九領ナリ
唐櫃岩蹟　同処ニアリ天正四年北畠家ノ被
官唐櫃某住セリ

熊内　唐櫃ノ東ニアリ天ヶ瀬ヨリ舩渉アリ
正税七十石紀州田九領ナリ紀州領主ノ炭
役廳アリ大杉山谷ノ民貢献ノ炭ヲ收歛メ四
方ニ鬻キ出ス方俗久毛智ト轉訛シテ訓セ
リ

明豆　御棟木ノ東ニアリ　正税三十八石紀州
田九領ナリ

明豆砦蹟　明豆執兵衛尉住セリ

天ヶ瀬　明豆ノ東ニアリ江馬ノ内ナリ紀州田
九領ナリ江場組合ナリ度會郡山田ヨリ三
瀬谷等ノ村邑柴薪炭等ノ運漕ノ舟ヲコヽニ
イタル、コレヨリ水源ニハ不到ナリ

江馬　天瀬ヨリ三丁東ニアリ　正税二百二十
八石紀州田九領ナリ旧本繒馬ト録セリ今江
馬ト公私共ニ載タリ　属邑浦ヶ谷アリ

繒馬砦址　同処ニアリ天正四年繒馬住人萩原
隠岐守萩原勝藏居セリ多氣直善院旧録ニメ
セタリ北畠家ノ被官ナリ

栗谷　天瀬ヨリ乾位山中ニアリ正税七十四石
紀州田九領ナリ　属邑下出アリ　湯谷河内
本邑ノ乾位ニアリ　西谷河内　本邑ノ北
ニアリ谷河内アリ　湯谷ヨリ飯高郡河俣谷
田引及冨永等山路アリ湯谷峠越ト称ス　湯
谷ヨリ三十町十六間ニ一里塚アリ同郡栃河

ノ谷ノ右ニアリ

栗谷砦址　同処ニアリ　唐櫃五身住セリ

霊符山　同処ニアリ　禅曹洞宗　本尊霊符北辰菩薩　霊符安心三昧修法巻ニノスル処ナリ

栗谷城址　同処ニアリ　天正四年栗谷某住セリ多氣国司ノ被官ナリ　北畠具親ニ與カノ義兵ヲ奨ス伊勢兵乱記ニ詳ニセリ

茂原　熊内ノ東ニアリ　正税百二十三石紀州田九領ナリ

茂原砦址　同処ニアリ　吉田悪才兵衛尉居セリ北畠家ノ被官ナリ今リノ畜住シテ歴代連綿セリ

平野　茂原ノ東ニアリ　平野木屋ト称ス　正税二十三石紀州田九領ナリ

薗村　平野ノ東四町ニアリ　正税百二十石紀州田九領ナリ　属邑古和瀬新田アリ

清水　薗村ノ十五町東ニアリ　本田小屋ヘ舟渉アリ　正税六十一石紀州田九領ナリ　属邑彦新田アリ方俗訛テミヤウツト称ス

赤滝　清水ノ薗村ヨリ十五丁東ニアリ　赤滝木屋ト称ス　正税四十六石紀州田九領ナリ

上菅　赤滝ノ東ニアリ　清水ヨリ川アリ　正税百七十二石紀州田九領ナリ　属邑菅木屋本

邑ノ西ニアリ
菅城址 同処ニアリ中西清兵衛尉拠セリ
下菅 上菅ノ東ニアリ 正税百四十四石紀州田丸領ナリ属邑大ヶ所新田ハ本邑ノ南ニアリ度會郡ニ隷レリ 滝部同茅廣新田 下菅新田等小字多シ
河合 下菅ノ東ニアリ 正税百七十七石紀州田丸領ナリ 属邑荒堀 小ヶ所アリ度會郡大内山ヨリ流ル野尻川ト大臺山ヨリ出ノ大河ト一派ニ合シテ三瀬ニイタル二岐ノ間ニアリ故ニ名ク
小切畠 江馬ヨリ八丁東ニアリ 正税百六十九石紀州田丸領ナリ 属邑浦ヶ谷 本邑ノ艮位ニアリ江間ト小切畠ノアイダニ二里塚有リ
本田木屋 小切畠ヨリ八丁東ニアリ 正税四十三石紀州田丸領ナリ 本邑ヨリ八フス岳越ト云アリ飯高郡宮前村ヘ至ル此谷裏ヶ谷口ト云左ノ渓間ニ村邑アリ裏ヶ谷村ト云左傍大杉ヨリ流ル大川ナリ
上真手 本田木屋ノ東ニアリ 正税百七十一石紀州田丸領ナリ 属邑下真手 本邑ノ東ニアリ 猿飼 下真手ノ東ニアリ 道カト新田 里村ノ小字アリ 下真手ヨリ本郡向粥見ニ径路アリ相津越 称ス又有馬野ニモ

イタル山路アリ上真手猪飼ノアイダニ谷川アリ夜ナキ橋ト云フ裏ケ谷ヨリ廿ツ目ノ橋ナリ

養国寺　下真手ニアリ禅宗　度會郡山田工保正法寺末寺　本尊観世音

焼飯　下真手ノ東ニアリ　正税百四十二石紀州田丸領ナリ属邑、其井　本邑ノ西ニアリ旧ハ薗井ト録スタト坂越ト云此處谷川高橋ヲ渉リ右ノ渓間ニ民家アリ　下真手ト焼飯ノ間渓川アリ大河ヘ落ル此谷川ノ水源ニ坊主ヤシキ赤出トイフ地ノ字アリ、寺谷橋下云フ。

佐原　焼飯ノ東ニアリ　正税二百七石紀州田丸領ナリ同郡向粥見ニ径路アリ佐原越ト称ス是ヨリ大臺山ノ下流大河ニ傍フテ領内谷及大杉谷ニイタル各山渓間ノ巷ナリ方俗大杉ヨリ以東ヲ天ケ瀬ニイタリ領内領ト称ス此処ヨリ大河ニ舟渉アリ舟木ベイタル舟木ヨリ山ノ面ヲ踰テ野尻ニ出ルナリ

上三瀬　佐原ノ東ニアリ　正税二百三十石紀州田丸領ナリ

三瀬御所旧墟　同処及下ニ瀬ノ間ニアリ天正四年国司北畠中納言具教ノ居城ナリ因云天正四年十一月廿五日晨ニ藤方刑部少輔臣

軽野某滝川三郎兵衛尉長野左京進ノ三十三
瀬ニイタリ具教ニ謁ス具教爐ヲ囲ミテ二人
ノ児子ヲ愛スル所ニ近臣佐ニ木四郎左衛門
尉三臣参謁ノ由ヲ啓ス即具教三臣ヲ召シ見
エ長野左京進頻ニ長鎗ヲ取テ衛ク具教憤テ
リノ鎗ヲ奪フテ剣ヲ抜テ斬ントス其臣佐々
木信雄ト謀ラ刀剱ノ刄ヲ尽ク懐テ及其鞘ヲ
堅メテ抽クコヲ得サラシム具教怒リ罵ル滝
川軽野其虚ニ乗シ刀ヲ抽テ殺害ス年四十九
其幼児ハ乳母抱走リケルヲ奪テ尽ク殺セリ
北畠顕能暦応元年本州ノ国司ニ補セラレシ
ヨリ歴代九世二百三十九年ノ天運忽ニ滅尽
シテ此トキモ亡廃セリ　伊勢兵乱記北畠物
語大畧相同シ

上　上主瀬砦址長野左京佐居セリ

下　下三瀬上三瀬ノ東ニアリ紀州牟婁郡長嶋街
道ニ民居ス方俗西国順礼街道ト称ス二所大
神ニ詣ナ諸州ノ観音巡拜ノ輩コヽヲ経テ紀
州長嶋ニイタリ第一番那智山ニ詣スルノ順
途ナリ旅籠茶貨店アリ　正税二百十三石紀
州田九領ナリ

式　式内多岐原神社同処街道ノ傍ニアリ方俗麻
奈胡社ト名ク旧名御瀬神社今ニ瀬ト転セリ
滝原宮ト混殽スヘカラス　祭神真奈胡神水

霊 内宮延暦儀式帳云滝原神社一処称麻奈
胡乃神形石坐倭姫内親王代定祝正殿一宇
長六尺弘四尺高七尺下畧倭姫命世紀曰活
目入彦五十狭茅天皇廿五年丙辰三月三日従
飯野高宮遷幸于伊蘇宮令坐中畧尓時倭姫命
詔白久南山末見給波吉宮所可在見由止詔弖
御宮所ヲ覔ル尓大若子命乎遣給支倭姫命者天
照大神乎奉崇戴小船尓乗給弖御船尓雜々神
財乎忌楯桙等乎止置弖従小河幸行支中畧従
其所幸行大河瀬乎渡給止為尓鹿完流相支是
織止詔弖不渡坐其瀬乎相鹿瀬止号支従其所
指河上幸行彼砂流速瀬有支于時真奈胡神参
相度奉支其瀬ヲ真奈胡乃御瀬ト号玉弖御瀬神
社乎定給支 度會延經神名帳考證云多岐原
神社麻奈胡神水灵麻与美音通伊豆国南子神
社阿波国天水沼間比古神社在三瀬村一名三
瀬社 度會正身神名帳再考證云多岐原神社
野尻滝原宮ト混スレ此野尻ハ宮ニシテ是ハ
社号ノ神ナリ此地モ御經行ニ暫ク止リ坐シ
故祀ルナリ 經行ノ日麻奈古神参會シニ由テ
後人其神ヲ祝ヒ充シナリニナゴトハ雜リ十
キ白砂ヲ云ナレハ川上ノ白砂アル処ナトノ
司ル地主ナルヘシ 今詳ニスルニ延經考證
ニ旧典ニ従テ祭神麻奈古神即水ノ灵神トス

麻ハ美ニ音通スル故ニ式内伊豆国南子神社
阿波国天ノ水沼間比古神社ニ同ク美奈古氏
称スヘキ引拠メ水灵神ト云注ナリ　正身再
考證ニハ滝原宮ニ皇大神迁幸ノ時麻奈胡神
参過スルニ拠リ其地ニ後ニ此社ヲ建置スル
処ニメ麻奈古ハ真砂ニメ其白砂アル地ヲ主
宰スル神ノ號ナリト云解ナリ愚按ニ倭姫命
世紀ニヽ其瀬乎相鹿瀬止号支従其所指河上幸
行波砂流速瀬有支于特真奈胡神参相度奉支
其瀬乎真奈胡乃御瀬号弖御瀬神社乎定給支
ト載スルニ拠レハ皇大神五百剣竹田国即今
ノ櫛田ヨリ魚海ニイタリ白濱真名胡国ニ真

名胡神社定メ玉ヒ大淀ヨリ伊蘓国狭田田上
笠木ヲ経テ相鹿瀬ヨリ此三瀬ニ至リ野尻滝
原ニ宮造スル処ノ次第ノ順路ナリ其処ニメ参
會スル神ニメ砂流速瀬ヲ渡シタルノ謂ヒメ
真奈胡社及神名ニ称スル処ナルヘシ猶其瀬ヲ
御瀬ト名ケ今三瀬ト轉メ呑スル処ニシテ即
此地ニ居スル地主神ニメ其地ニ真砂ノ多キヲ
称スル名トスヘシ既ニ多氣郡濱田ニ白濱真名
胡国ト称メ真名胡神社ヲ定祀スル処世紀ニ
見エタリ白濱ト云片ハ白砂ナルノ謂ナリ再
考證ニ白砂トスルノ解是トスヘシ考證ニ麻
奈胡水奈古ニ訓メ水灵ト云ハ未詳臆度ナリ

猶延佳延經父子ハ神典ヲ陰陽五行ニ配シテ
解釈スルニ拠テ無形ノ神多ク及ヒ五行ノ炅
ニ偶スル常辟ナリ其徳ヲ表スルト云ハ時ニ
然イフヘキアリ其炅ト云ハ寓言ニメ真ニ非
スイヅレ此地ニ主宰スル処ノ神ニシテ必ス
皇大神巡幸ニ遇會スル処ノ神トスヘキナリ
延經正身其説ノ矛盾スルハ陰陽無形或ハ五
行ノ炅神ト称スル処ト有形ノ地神トスル処
ト各異ナルカ故ナリ猶今古差アリ世紀ノ文
ニ拠テ其定祝ノ地ヲ索スル処ニメハ詳ナル
ヲ注セハ本郡濱田ニ真名胡神社アルニ拠テ
混合スルニ定レリ世紀ニ亦時倭姫命見悦給

支其所亦魚見社ヲ定賜支従其幸行奈留御饗
奉神参相奉支汝国名何問給支白久白濱真名
胡国止答白支其処真名胡神社ヲ定給支ト記
スルハ魚海ヨリ濱田ニ巡幸ノ順次ニシテ真
名胡ハ真砂ニメ俗ニマナコ砂ト云其地勢ノ砂
石多聚ル処ノ謂ナリ此三瀬社ニ麻奈胡ト称
スルモ相同シ前ニ白濱真名胡国ニ定祀スル
処ノ参會ノ神名ハ世紀ニ所載ナシ故ニ其地
名ニ拠ラ真名胡神社ト号シ又後ノ此ニ祀ル
処ハ真名胡神ト称スルニ拠ラ御瀬神社定祀
スル処ニメ後世麻奈古ニ作リ麻奈古神社或
三瀬神社延喜式ニ多岐原神社ト称スルナリ

相似タルニ擬テ前ノ真名胡神社ニ混スヘカラス此神社モ儀式帳国郡司奉造社ナリト今ノ社域ハ寛文二年大中臣精長造進シ再興スル処ナリ延喜式ハ度會郡ニ隷入セリ今本郡ニ属セリ上世ハ多氣度會二郡ノ交ニアルカユヘニ後チニ混シテ本郡ニ属セシナルヘシ

三瀬河　本邑ノ南ニ流ル紀州街道ナリ度會郡野尻村ニイタル舟渉アリ即大臺山ヨリ出ル豊宮川水源ナリ

舟本　下三瀬ノ坤位ニアリ　正税九十九石紀州田丸領ナリ

式内　棒屋神社　社域祭神未詳　度會延經神名帳考證云棒屋神社船戸日本紀云素盞烏尊曰杉者可以為浮宝大殿祭祝詞云屋船久々遅命是木霊也船木邑産社此歟　度會正身神名帳再考證云棒屋神社棒當作杉前ニ椙原ノ字ヲ誤テ訓ヲ差ヒシヨリ棒ハ即杉ノ字トシテ印本其誤ヲ傳ヘシナリコレハ殖杉ナリ殖ヲヤト云例加須屋ノ下ニ注ス日本紀ニ素盞烏尊五十猛命ヲシテ木種ヲ殖シメ其不用ヘキ方ヲ定メテ杉者可以為浮宝ト宣フコトアレハ五十猛命或ハ其妹大屋姫命ヲ祀ルナリ舟木村ノ産神是ナルヘシ今詳ニスルニ延經考證

棒屋神社スギヤト訓スルニ名義ニ拠テ日本書紀ヲ引徴メ素盞烏尊ノ言ニ杉ハ浮宝ト為ヘシト浮宝ハ即船ナリ又延喜式大殿祭祝詞ニ屋船久々遅命ハ木ノ霊ナリト云ヲ引テ船木村ノ名ニ應ヌ産神ノ社ナルヘシ此ニ拠テ栄神船ノ霊ナリト云注ナリト正身再考證ニ棒ハ杉ノ字ニ作ルヘシ旧ト延喜式ニ桙原スギハラト云訓ヲ誤リテスキニ唱ヘヌ字ニ作リ棒ニ印本ニ謬傳ノ棒ヲ杉ト同ク訓セルニ拠テ今ニイタレリ棒屋ハ杉ウヱノ畧ニシテ殖ラヤト轉ス後條加須夜神社ハ柏殖ニメカミハウヱノ畧ナル例ニ同シ日本紀ニ素盞烏

尊五十猛命ニ詔スルノ下ニ浮宝ノコアレハ五十猛命ヲ祭ルヘシ或ハ大屋姫命モ其妻ナルカ故ニ此二神ヲ祀ル処ニメ前考證ノ船ノ霊ニハ非スト排斥ス処ナリ社地ハ船木村ナルヘシト云釈ナリ愚按ニ棒ハ字書ニ棍也桿也注メシモト、訓ス再考證ニ桙原スギハラト訓ス即クスギナリヌギヲスギニ誤看テス棒ニ作リスギト訓スルヨリ延喜式印本ニ謬傳ストヱハ卓見ナリ然リトスヘシ桙字昏ニ槻ト同クケヤキナレ𪜈国昏ニハ妾ニシテ上世ヨリ誤用ル多シ孰レ棒ハ非ナリ然𪜈強テ謂フトキハ杉屋ナルハ必セリコレニ拠テ杉

ハ浮宝トスヘノ文ヲ據テ舩霊神及舩木村ノ名
ニ拠ニ此地ニ定ムルハ牽強ニメ至當トシ難
シ臆斷ナリト憶ヘリ猶考證モ前證ニ倣ヒテ
別異ナシ然レ𪜈五十猛命及大屋姫命ヲ奉祀
スヘシト云々前ノ舩木ニ舩ノ霊ヲ牽合スル
ノ忌テ排スルノ一說ナリ穩當トイヘ𪜈其社
域未詳ニイタレリ何ソ祭神ヲ論スヘキナシ
式社案内記此ニ従テ祭神舟霊舟木村ニアリ
トス舩木ハ本郡三瀬村ノ隣比ニメ三瀬川ノ
水匡ニアリ旧ト舩置ノ畧濁ニメ今再木ト称
スナルヘシソノ故ハ常ニ河舟多ク往還スル
処ニメ今紀州領主ヨリ監舩廳ヲ置テ用材薪

炭等運漕ノ鑒看アリ三瀬ハ皇大神迁幸ノ地
ニシテ倭姫命ノ定祀ノ神社等アルヘシ然𪜈
世紀ニ所傳ナシ式内神社ハ飯高郡丹生郷ヨ
リ以西ニ曽テ所置ナキニ例シテ本郡モ三瀬
ヨリ以西ニ所置ナキ処トイフヘシ佐那神社
相鹿本太御神社寺山神社ノ外ニ以西ニ多ク
所置ナキヲ察知ヘキナリ其餘郡ハ狭小ナル
カ故ニ郡中ニ庀リ多氣飯野度會ハ長大ナル
カ故ニ以西ニ曽テナシ延喜式ヨリ後ニ民居
モ多キカ故ナルヘシ然レハ此棒屋神社モ此
地ニ定メカタシ竜懸近神名帳考正ニ菅生村
ニアリトス是棒屋菅生訓相似タルヲ以テ臆

断ナリ勢陽雑記拾遺此ニ従ヘリ菅生ハ飯野郡ニ属メ立利七見ニ隣比ス本郡ト混スヘキニ非ス伊佐和神社ノ式ニ本郡ニ係ルハ本郡飯野ノ郡界ニアル故ニ今古ノ差異ニメ此例ニアラサルヘシ其餘未其社地ヲ考ヘキナシ古事紀云神八井耳命伊勢舟水直尾張丹羽臣島田臣等祖也ト載ル𪜈ハ上世舟木直ノ所居ニメ祭神ハ神八井耳命ヲ遠祖ナルカ故ニ祀ルトシハ至當ナリ即綏靖天皇ノ尊兄ナリ舩是或五十猛命トスハ非ナリトスヘシ然レ𪜈此舟木ニ必定スヘキ其徴ナシ故ニ姑ク闕如ス古屋亭紙句々廼馳命ヲ奉祀トスト云。妄ナリ今其社地祭神ヲ詳ニ考ヘ得ストイヘ𪜈前考證ニ傚テ姑ク此ニ標出メ所載ナリ猶後晢スヘシ

長箇　下三瀬ノ八町巽位ニアリ　正税百九十八石紀州田丸領ナリ

高瀬　長箇ノ艮位ニアリ　正税八十二石紀州田丸領ナリ　度會郡神原ヘイタル舟渉アリ

奈良井　下三瀬ノ一里東ニアリ高瀬ヨリ東十五町ニアリ　正税七十四石紀州田丸領ナリ
属邑新田アリ

粟生　奈良井ノ東三町ニアリ　正税二百石紀州田丸領ナリ　神鳳抄云外宮小粟生御薗一

上楠　粟生ノ八町東ニアリ　正税二百三石紀州田丸領ナリ　属邑　下楠　本邑ノ東三町ニアリ　本邑ト粟生ノ間ニ一里塚アリ

神瀬　下楠ノ艮位十五町ニアリ　正税百十七石紀州田丸領ナリ　属邑　河内新田アリ

杤原　神瀬ノ五十二町艮位ニアリ　正税三百四十石紀州田丸領ナリ　属邑宮野大林アリ杤原新田　本邑ヨリ十二町西ニアリ　神鳳抄ニ内宮杤原御園一石九十二月

杤原神祠　本社南向　五社ノ宮トイフアリ星ケ池峠明神アリ

柳原　杤原ノ巽位ニアリ　正税二百十五石紀州田丸領ナリ

千代　柳原ノ二町東ニアリ　正税百四十五石紀州田丸領ナリ

勢陽五鈴遺響多氣郡巻之壹終

勢陽五鈴遺響多氣郡巻之二

東相鹿瀬 千代ヨリ五町東ニアリ山間ニ民居ス旅舎茶鄽アリ西国順禮街道ナリ田丸府ヨリ西二里 三宅郷ニ属ス 正税百八十三石紀州田丸領ナリ 属邑西相鹿瀬 本邑ノ三町西ニアリ東相鹿瀬ハ公牒ニ度會郡ニ隷レリ旧記逢鹿瀬按スルニ旧名大河瀬ナルヘシ豊宮川ノ水源ニアリ故名トス然レトモ倭姫命世紀鹿完流相支ノ文ニ擬テ相鹿瀬ノ名ヲ填ト謂ヘキナリ 神鳳抄ニ相可瀬御園又云内宮逢鹿寺御園一石此ニ有スル処ナルヘシ

子ギ峠　東相可瀬ヨリ野中ノ内成川邨田ノ
間ニアリ十町餘モ登リテ本邑ニ至ル　倭姫
命世紀曰活目入彦五十狭茅天皇廿五年丙辰
春三月三日従飯野高宮遷幸于伊蘇宮令座中
畧倭姫命詔久南山未見給江波吉宮所可在
見由止詔弖御宮所乎覔尓大若子命乎遺給支
倭姫命者天照大神乎奉崇戴小船尓乗給弖御
船雜々神財並忌楯桙等乎留置弖従小河幸行
文中畧従其所幸行大河瀬乎渡給止為尓鹿宍
流相支是職止詔弖不渡坐其瀬乎相鹿瀬止号
文　今詳ニスルニ伊蘇宮ヨリ狭田田辺笠木
ヲ経テ野尻滝原ニ遷幸ノ順次ニメ相鹿瀬ハ

山林ト傍テ村邑ハ居ストイヘトモ此地ニ云矣
三瀬川ノ末村落ノ南ニ流テ崖ニ臨ム故ニ相
麻瀬ノ名アリ

逢鹿瀬寺。地所未詳　神宮雜事紀神護景雲元
年十月三日逢鹿瀬寺永可為大神宮寺之由被
下宣旨既畢云云

野中　東相鹿瀬ヨリ東一里ニアリ　有戴郷ニ
属ス方俗余ト私称ス　古図及明暦中図度
會郡ニ隷レリ今本郡ニ属ス　正税五百十九
石紀州田丸領ナリ　属邑成川新田本邑ノ
西ニアリ本邑ハ田丸府城ヨリ西国順礼街道
紀州長嶋ノ岐道ナリ　又北ニ街道アリ本郡

佐奈ノ内仁田四神田ヲ經テ飯高郡丹生ニイ
タリ同郡河俣谷高見峠ヲ越テ大和州ニ至ル
吉野金峯山及紀州ノ街道ナリ　河俣越ト称
ス村邑ノ間ニ両岐ノ巷アリ辻堂アリ吉野及
西国街道ノ標石ヲ建ル　神鳳抄云内宮野中
御園一石九十二月

森庄　野中良任ニアリ。　正税二百三十四石紀
州田九領ナリ屬邑中村アリ。

式内相鹿木多御神社　同処ニアリ方俗八王子
ト称ス　祭神句々廼馳神　度會延經神名帳
考證云相鹿木多御神社木吴句々廼馳神倭名
抄云樹祢和名古太万今在森庄村ヲ相可村之
東南北一度會正身神名帳再考證云相鹿木多
御神神祭神句々廼神ナルヘシ名義ハ木股生
ニテ枝葉ヲ生セシムルヲ云上ノクヲ畧シテ
且まノ畧濁太ハ濁音ノ字ナリ句々廼馳トハ被
邪ニテ春神ヲ句芒ト祀ルニ等シク木ノ芽ヲ
句ムルニ拠リ名ケテカンガムノ。老翁ト云ナ
リカムノ切ク即躍ハカンカマルナリ考ノ久
求トナルカ妍シ考證ニハ社地今森庄村ニ在
ヲ云ナルヘシ相可ノ東南ニアリ　今詳ニス
ルニ延經考證ニ相鹿木多御神社ノ名義ニ拠
テ倭名抄樹神ヲ古多方ト云木多御ニ相似タ
ル故ニ木ノ吴神句々廼馳ヲ祀ルトヨロトス

木ノ吴ニ擬テ本郡森ノ庄ノ名ニ冨ノ此ニ祭
ル処ナルヘシト解ス意ナリ正身考證ニ祭神
ハ句々廼馳神ナルヘシ木多御神社ノ名義ハ
木股産ノ意ニシテ樹ノ枝葉ヲ生スルヲ云ノ
義ナリ句々廼馳ハ樹木ノ吴神ナル故ナリ社
地ハ前考證ニ雷同スノ注ナリ憶フニ本多御
神社ノ名義ハ前考證ハ古多方ノ通語トシ後
考證ハ木股生ノ畧濁トス孰レ其徴ヲ得難シ
竜熈近神名帳考正ニ社地林村ニアリ式社案
内記ニ森庄村ノ東ニアリ今云八王子ト載ス
コレニ考證ニ従ヘルナリ勢陽俚諺ハ本郡相
可伊蘋寺ニアリ所祭大山祇命トス或云森庄

村ニ能ス処トスルハ本郡相鹿瀬村ノ艮位ニ
アリ地名稍ク相合フ故ニ相鹿瀬ノ北位ニア
ル処ノ社号トス案スルニ牽強ナリ相鹿ハ相
可ナリ前ノ相鹿牟山相鹿上ノ神社ト同例ナ
リ其北位ナル故ニ木多ト称ストイヘトモ御
ノ字解シカタシ本多御三字連續シテ称スヘ
シ度會国御神社国乃御神社ノ如シ又考正ニ
林村ニ坐ストモ云モ相可ノ西北位ニアル処ノ
村邑ナレハナリ然レ圧林村ニ式内林神社ア
リ其他ヲ需ムヘキニアラスコレ木多ヲ北ト
スノ義ニメ従ヒカタシ森ノ庄ハ相可ノ南位
二十町許ニアリ此地上世相鹿ト隷属スル処

ナルヤ未知或ハ相可ニ近キ地ニ存ス旧地ヲ遺失ノ後ニ此ニ定メルヤ其是否ハ弁シ難シ勢陽俚諺ニ伊蘇寺ノ境地ニアリトスハ強テ相鹿ノ名ニ合セントスル如シ大山祇命ヲ奉祀スルトモ其徴ヲ得ス各従フヘカラス是ニ由テ前ニ考證及式社案内記ニ倣テ森庄村ニアリ句々廼馳神ヲ奉祀スルトコロニ従フヘシ

田中　野中ノ北ニアリ　正税二百二十四石紀州田丸領ナリ　野中及田中ノ名義ハ本郡太杉ヨリ相鹿瀬ニイタリ各山間林最ノ間ニ居スコ有地ニイタリ稍ク原野平田ノトコロナリ故ニ名ツク故ニ野中方俗原村トモ私称セリ

四神田　田中ノ十八丁乾位ニアリ　正税三百四十六石紀州田丸領ナリ

油夫　四神田ノ坤位ニアリ　正税四百五十四石紀州田丸領ナリ

式内火地神社　同処ニアリ　産神トス　祭神軻過突智命　度會延経神名帳考證ニ火地神社火雷命油夫村産社此手油壽也夫火也十月祀之　度會正身神名帳再考證ニ火地神社ホツチト訓スヘシ地ハ假字山祇雷（ツチ イカツチ）ノコトシ加過突智ヲ大神トモ火突智トモイフヘシ日本紀第

一ニ軻遇突智要填山姫生稚産灵此神頭上生
蚕子桑腈中生五穀トアリテ蚕桑豆麥ノ為ニ
祭ルナリ社地未詳油夫村ノ産神ナルカト云
フ今詳ニスルニ延経考證ニ火地神社バ名
ニ拠テ火雷神ヲ所祭トシ油ハ脊ノ訓夫ハ火
ノ訓ニ同シ故ニ油夫村ニ産神社地ナルヘシ
ト云解ナリ正身再考證ハ火地ハホツチト訓
スル山ツチイカツチ軻遇突智ノツチニ同ク猶
日本書紀軻遇突智頭上ニ蚕桑及腈中ニ五穀
ヲ生ストスフ文ニ拠テ五穀豊登ノ祈ニ此神祭
ル処ナリト云然レモ社地詳ナラスト釈ス恩
案ニ前考證ニ火地ノ社号ニ拠テ火雷命ヲ所
祭トス再考證此ニ倣ヒテ火地ハホツチニメ
即火神軻遇突智ヲ祀ルトスコレ稍ク是ニ近
シ考證ニ社地油夫ハ脊火ノ轉訛ス故ニ其邑
ノ産神ナルヘシトスコレ一説ニシテ是ナル
ニ似タリ其故ハ油夫ト名ク処他ニ異ニシテ
奇ナリ未其義ヲ得ス此ニ拠ルニ然リトスヘ
シ油夫ハ佐那神社守山神社相鹿木多御神社
ノ地ニ比隣シテ式社多シ故ニ火地神社ノ所
在ニメ油夫ト名クモスヘシ勢陽雑記拾遺及
式社案内記ニ岩内村観音寺境内ニアリ祭神
前ト同シ勢陽拾遺ハ畠田神社及石田神社ノ
三処皆軻遇突智命ヲ祀ルトス三社近地ニメ

同神ト祭スルハ合妄ナリ勢陽俚諺ニ度會郡
陽田神社ヨリ十四丁有尓郷岡村ニアリトス
以上式社案内記勢陽俚諺各異ナリ案内記ハ
岩内方俗伊保知ト訓呼ス火地ハ伊保知ノ上
略スル処亦同シ故ニ此ニ牽合スルナルヘシ
飯高郡ニ同名アリ俚諺ハ岡村ニ坐ストイヘ
旧度會郡ニメ本郡ニ非ス延喜式ト異ナリ今
古郡ノ差互多シトイヘトモク郡ニ遼シ其餘
真ヲ得ス従ヒカタシ今姑ク前考證ニ倣ヒテ
此ニ従ヘリ猶後ノ訂正ヲ期ス処ナリ

五桂池夫ノ西ニアリ平谷ヘ十八丁　正税五
百八廿三石紀州田丸領ナリ佐奈谷ト称ス

大沼池アリ水田ノ用ニ設ク方俗五桂池ト称
ス本州第二三ノ大沼ナリ

仁田四神田ヨリ十五丁乾位ニアリ　正税三
百八十一石紀州田丸領ナリ佐奈ノ内ナリ

式内佐奈神社　同処西ノ入口ニ在ス大森社ト
称ス　祭神二座天手力雄命天石戸別神　度
會延経神名帳考證云佐那神社二座手力雄神
若沙那賣神古事記云手力男神者坐佐那之懸
也手力雄神為天神御戸開神今在佐那仁田村
西称大森社　度會正身神名帳考證云佐那神
社二座古事記ニ思兼命ノコトヲ云テ次ニ天石
戸別神亦名謂櫛石窓神亦謂豊石窓神者御門

之神也次手力雄命佐奈懸ニ在リト文ヲ属ケ
タレハ天石窓神ト手力雄神ト二座ヲ与ニ祀
ルナリ今詳ニスルニ延経考證ニ佐那神社
ノ名義ニ拠テ二座ヲ填ルニ天手力男神若沙
那売神ト為ス猶佐那ニ拠テ若沙那売神ヲ合祀
トスハ牽強ナリ従ヒカタシ正身後考證ハ古
事紀ニ思兼命ノ次ニ天石戸別神次ニ手力雄
命ト次第スルニヨレハ即天手力雄神ト天石
戸別神ノ二座ヲ合祭レリト云即天石戸別命
ハ手力雄神ニ属スル処ニメ櫛石窓豊石窓各
一神ノ名ナリ与説是トスヘシ式社案内記ハ
前考證ニ倣ヘリ非トスヘシ古事紀ニ手力男

命者坐佐那縣又曰大股王之子曙立王次菟上
王此曙立王者伊勢之品遅部之君伊勢之佐那
造之祖旧事紀相同シ佐那造ハ開化天皇ノ曽
孫曙立王ノ裔ナリ倭姫命世紀曰活目入彦五
十狭茅天皇廿二年佐奈縣造祖弥志呂宿祢命
尓汝名何問給白久許母理国志多備国真久佐
牟毛佐向国止荅白支進神田神戸此時飯野高
宮ニ坐スル時佐那縣造ノ祖弥志呂宿祢命ノ
奉祀セシナリイツレ佐那縣ハ今云佐奈谷ニ
シテ所謂長谷神坂前村平谷仁田五桂五佐奈
油夫四神田西山ノ十邑ナリ世紀ニ所載許母
理国ハ隠口ニシテ国ハクノ字ナリコモリク

ハ隠口ノ泊瀬ノ如ク此谷ノ隠々タルニ拠レリ下樋ハ非ナリ下日ト謂ニ冠辞ナルヘシ真久佐ハ真草ニメ万葉第一真草刈ル荒野者雖有トニ同シ佐向ハフク加反ナリニメ向ハ今ノ奈ノ訓テハ佐奈ト転セシナリ内宮延暦儀式帳ニ真久佐平毛草向国ト載ル如シ伊勢国旧跡聞書ニ草向国ハ飯野郡射和ノ北ニ草伏トニ地アリコノ処ナリトイフハ臆説ナリ佐奈谷ハ射和ノ南ニアリ草伏トニ村邑ナシ下樋トメ飯高ノ下村トスルモ非ナリ佐那郷ハ上古県主ヲ所置ニテ其徴正シキ処ナリ俚諺ガ坊原ノ地ニ奉祀スルトイフハ恐クハ差ヘリ又

弥志呂宿祢命ヲ本社ニ奉祀スルトニモ世紀ニ拠テ牽強ナリ古事及旧事紀ノ典拠ニシテ手力雄命ヲ祀ルトメ其他ヲ容ルニ及ハス猶弥志呂宿祢命ハ垂仁帝朝ニメ曙立王ハ佐那県造ノ祖開化天皇ノ特ナリ垂仁天皇ヨリ以前ニシテ佐那神社ト標シテ此県ニ魁トスル神社ナレハ佐那県造ノ遠祖ヲ祀ルニ曙立王ヲ奉祀ストイフハ佳ナリ然レトモ古事紀ニ天手力男命ヲ佐那県ニ坐スト載ルトキハ姑ク従ヒテ俚諺等ノ異説ハ是否ヲ未論ナリ猶今仁田村ノ西ニ大森社ト方俗称スルニ拠テ天手力男命ヲ伊勢佐那造ノ遠祖ヲ崇敬シテ祀ル

処ノ社域ナル故ニ大森ノ名起レリト惟ヘリ
コレニ由テ別ニ其地ヲ考索スルニタラスト
云フヘシ

二ツ井　同処ニアリ上人傳云古昔弘法大師
堀シム井ナリ其一ハ清潔ニシテ其ニハ濁汚
ナリ奇トスヘシト云

平谷　仁田ヨリ十三町西ニアリ正税五百九
十七石紀州田丸領ナリ小字アリ北ニ居ス佐
奈ノ内ナリ

前村　平谷ノ十二町西ニアリ正税五百三石
紀州田丸領ナリ本邑ノ北ニ小字アリ佐奈ノ
内也。神鳳抄云内宮前村御園一斗十二月

神坂　前村ノ北ニアリ松坂府ヨリ坤位二里
正税三百四十二石紀州田丸領ナリ佐奈
内ナリ神坂ノ名義ハ守山神社ノ在ルナ以
テ称スナルヘシ　神鳳抄云神坂御園七斗

式内守山神社　同処ニアリ　産社ト云丹生社
ヨリ良位一里　祭神正鹿山祇命　度會延經
神名帳考證云守山神社大山祇神按守鎮護也
今佐奈神牧山社此乎旧事記云大山祇亦名正
鹿山津見神正鹿手坂言通　度會正身神名帳
再考證云守山神社正鹿山祇ナリ正鹿ハ真坂
ノ假字其守山ノ神社ハ今ノ佐奈ノ神坂ノ社
是ナリ真坂ノ義合ヘリ今詳ニスルニ延經

考證守山神社ハ名義ハ守ハ鎮護ナリ山ヲ護ルノ謂ニメ今ノ佐奈ノ神坂村山ナ社ト俗称ス処ニ當レリ旧事記ニ大山祇命ヲ正鹿山津見神ト名ツク正鹿ハ真坂ト言通ス故ニ神坂ノ名ニ適當スト云ナリ正身再考證ハ前證ニ倣テ異ナシ案スルニコレ日本書紀第一ニ五山祇ヲ載テ大山祇中山祇麓山祇正鹿山社鷸山祇ト標出セリ再考證ニもロ ノ切ひロ ニテ守山神ト云義ナリ年山神社ノひロ モ守山ノ謂ト同シト云故ニ年山神社ハ大山祇中山祇ノ二座トス今従ヘリ林神社ハ麓山祇ヲ祀レリト云モ然リトスヘシ正鹿山祇ハ此神社ニ祀ルト云是ナリ式社案内記ハ五十猛命ヲ奉祀トスト云ハ従ヒカタシ其徴トスヘキナシ再考證ニ鷸山祇ハ相鹿上神社ニ祀ルト云ハ非ナリ竜燕近神名帳考正ニ守山神社宇亦伊達山ニアリト云故ニ伊達即五十猛命ニ合スルニ拠リテ式社案内記ニ五十猛命ヲ祀レリト云然氏其社域ハ異ナリ考正所言ニ従ヒカタシ其故ハ正鹿山祇ヲ祀ルニ拠リ守山神社ト称シ其地ヲ神坂ト後世名クルニヨリテ其徴ナナキニアラス此処ヲ真トスヘシ

摩尼山金剛座寺　同処北ノ山上ニアリ天台宗方俗佐奈ノ金剛山ト称ス　本尊如意輪観音

寺傳云大織冠鎌足讃岐州志渡浦ニ面向不背ノ昊玉ヲ得ル祈願成就ノ後建立ス処ナリ

古屋草紙云藤原不比等志寺ナ此地ニ迁ス

境内ニ三葉丁子アリ本邦ニ所在ノ二木ノ内ナリ方俗橄攬樹ニ誤リ称ス高三石紀州領主ヨリ免許アリ　国順禮第十番詠云

むかしより蓍挖けうへ本ぞれなりけり佛乃うけを移れる

今詮スルニ大織冠鎌子海人ニ宝珠ナ龍宮城ヨリ奪ハスノ俗譚徃昔ヨリ口碑ニアリ俗諺曲ニモ多ク作リ軍記等ニモ往々引證ス藤原鎌足藤纏ノ鎌ヲ以テ入鹿ヲ誅シ此褒賞ニ大織冠ノ官ヲ授ク二女アリ一ハ光明子聖武帝后ニ立二ハ光白女ト号ス大唐高宗皇帝ノ后トナリ故ニ萬戸将軍ニ命メ唐ヨリ花原磬泗濱石面向不背珠ノ三種ヲ南都與福寺ニ贈ルニ讃岐州志渡房前ノ澳ニテ竜神ニ宝珠ヲ奪ハル鎌足身ヲ潜メ彼国ニイタリ海人ヲ妻トシ託ノ珠ヲ得セシム其時一男子ヲ産ス即房前淡海公ナリト此説不足論トイヘﾄﾞ妄ナ正ス為ニ徴トリ羅山文集十謬傳ノ詩ニ藤不纏鎌姓依旧ノ句ニ明ニメ天智天皇紀ニ其事蹟ナシ鎌足ハ後世ノ訛ニメ鎌子ト載テカコストト訓ス鎌倉志等ニ公ノ鎌ヲ埋タル地故、鎌倉ト称スモ其妄ナルコ上ニ相同シ又大織冠ハ

孝徳天皇紀ニ大小織官七色十三階ノ冠ノ名
ニシテ褒賞ニ非ス光明子ハ鎌子ノ孫不比等ノ
女ナリ三女アリ一ハ宮子ト名ク聖武帝母ナ
リ二ハ光明子聖武皇后三ハ多比野ト名ク橘
諸兄ノ室ナリ然ハ光白女トイフヘキナシ又
唐大宗ハ孝徳帝朝ニシテ聖武ヨリ前ニシテ
光明皇后ノ妹ト同時ニ非ス淡海公ハ不比等
ナリ續日本紀天平宝字四年八月勅ニ大政大
臣藤原朝臣勲績蓋於宇宙朝賞未允人望宜依
大公故事追以近江国十二郡封為淡海公房前
ハ藤原系図ヲ検スルニ不比等ノ二男ナリ又
宝珠ヲ竜宮ニ得タルトイフハ妄譚ナリ日本
書允恭紀曰獵于淡路而不獲一獣故卜矣赤石
海底有真珠其珠祠島神則當得獣於是海人男
狭磯者腰繋縄入海底差須之出曰海底有大鰒
其処光也亦入探之抱大鰒而出乃息絶而死
以縄測海底六十尋既而割鰒腹得真珠其大如
桃子乃祠島神而獵多獲獣也云云此ニ倣テ志
度浦ニ珠ヲ獲タル事蹟ヲ附會セシナリ前條
ニ所載鎌子及不比等何ノ因ヲ以テ本州ニ建
寺ノ謂アルヤ不知トイヘ𪜈獲珠ノ説ハ荒唐
ナリ古屋草紙所載ノ三葉丁子ハ瑞香ノ属ニ
シテ結香花ナリ信飛ノ二州深幽ノ山谷ニ大樹
多シ敢テ奇翫スヘキニアラス然レ𪜈此地ノ

山間ニ有スル希レナリ故ニ貴スヘキニタレ
リ

長谷　前村ヨリ十五丁西ニアリ松坂府ヨリ坤
位三里半方俗丹生ノ長谷ト称ス丹生ノ隣比
ニシテ廿丁ヲ隔テタリ又長谷ノ名安濃郡
ニアリ故ニ混セサランカ為ニ丹生ノ名ヲ冒
シテ称ス或ハ往昔丹生ト一邑ノ如ク後ニ分
置スル処トス故ニ丹生ノ名ヲ冒ストイフハ
非ナリ今ノ多氣郡津留古江等モ和名類聚所
謂ノ丹生郷ニメ丹生ノ艮位ノ多氣郡ノ境ナ
リ然レハ丹生ニ近キ犬牙ノ地ナレハ丹生ノ
長谷ト称スルモ然リ　正税百二石紀州田丸
領ナリ

丹生山近長谷寺　同処山上ニアリ真言宗本
尊十一面観世音長一丈八尺勤操僧正作ニ本
堂六間七間紀州領主ヨリ高五石免許アリ
国順礼処第十一番詠云
大和なるはつせ寺もこれもまたおなし清法ぞ有ける
異本道ふにこそ入れ　雑記所載孝行天皇開基
トイフハ光孝天皇ナルヘシ其拠未詳
北畠権少将国永集云丹生此泊瀬にまうてけ
ゐの柿木のもとにてちらひのみ待
柿す咲梅のむかしをしのふ家代乃かたみとそたのむは
観音妙智力をたのみてこそ通釈行人多かりけ

色は
高くあふき世しは明ふ勝修名なれや翠を紅さるちらんるを
今詳ニスルニ安濃郡長谷村長谷寺アリ遠長谷寺ト称ス此山ヲ近長谷寺ト称スル遠近ノ字ハ大和州長谷寺ヲ摸スル処ニメ大和ニ近キヲ称シ安濃郡ハ遠キ故ニ遠ノ字ヲ冠スルカ如シ當寺元禄中ニテ丹生村神宮寺ノ末院トリ今故アリテ離末セリ或ハ光明寺ト號ス寛文中住侶快養法印四方ヲ勧進ニテ本堂ヲ造建ス又僧室ハ寛永年中現住政尊律師造ル処ナリ其以前ハ一茅室ノ中ニ尊貌ヲ安置ス住僧モ其中ニ居メ雨露ニ侵レ佛軀ノ膠漆モ損ケルヲ貞享中現住快舜阿闍梨衆縁ヲ募テ修補セリ又元禄三年八月十四日大洪水ニ堂後ノ山頂頽崩メ本堂ヲ損ス然レヒ本尊ハ恙ナカリシ當今ハ本堂及僧房厳ニ荘造セリ近時鐘ヲ鑄ル其銘引曰　正六位上飯高宿祢諸高諱観勝普化親属知友以仁和元年所建也亦曰仁和帝叡願也或先倫詔飯高氏後潤色焉其飯高諸高ノ事蹟ハ續日本紀第三十一同第三十四ニ載タリ

色太　枌原ヨリ一里西ニアリ　正税百九石紀州旧九領ナリ　三鹿野　本邑ノ艮位ニアリ
森　属邑小字ナリ

土屋　邑太ノ十二町西ニアリ　正税九十石紀
州田九領ナリ
福壽寺　同処ニアリ東本願寺派専念宗ナリ
本尊阿弥陀佛
車川　土屋ヨリ廿丁西ニアリ　正税百二石紀
州田九領ナリ
徳林寺　同処ニアリ東本願寺派専念宗　本尊
阿弥陀佛
向粥見　車川ヨリ二里西ニアリ　正税三百四
十八石紀州田九領ナリ飯高郡粥見ノ河俣川
ヲ隔テ南ニ居ス故ニ粥見ニ對シテ名ツク
屬邑波留　本邑ノ西ニアリ　相津　本邑ノ
南ニアリ本郡佐原ニイタル山路アリ相津越
ト称ス又向粥見小字アリ　穢多居人ノ邑本
邑ノ南ニアリ
醫王寺　本邑ニアリ　禪宗　本尊藥師佛
波多瀬　向粥見ノ二里東ニアリ　正税三百一
石紀州田九領ナリ　屬邑名古　本邑ノ西ニ
アリ或ハ奈古ト録ス河俣川ニ傍フテ居ス故
ニ波多瀬ノ名アリ
観音寺　同処乾位ノ山上ニアリ　黄檗禪宗
光蓮寺　同処ニアリ東本願寺派専念宗　本尊
阿弥陀佛
波多瀬城跡　同処乾位山上ニアリ字ハ小屋城

ト称ス小城ノ意ナルヘシ今其址ニ冨士権現ノ祠ヲ祭レリ波多瀬三郎住セリ　北畠物語ニ云六呂木山副波多瀬三人船江ノ本田方ニ預ケラル中ニモ波多瀬三郎生年十五歳無双ノ容顔ナリ信雄コレヲ惜ミテ一命ヲ助ケニトス波多瀬辞ノ云三人同罪ナリ我一人生テ面目ナシ故ニ諸𪜈ニ害ヲ蒙ラニト云二人諫ムトイヘ𪜈不用メ終ニ三人𪜈殺害セラレ又何レモ磔ニカケラル丶𪜈主君ノ為ニ一命ヲ舎ルヿ弓矢ノ面目ナリト同音ニ謡ヒ戯レ終ニ害セラル寔ニ波多瀬若年ナレ𪜈義ヲ重ンメ死ヲ潔ス

片野　波多瀬ノ十町艮位ニアリ　正税四百九十五石紀州田九領ナリ　属邑多古　本邑ノ東ニアリ山林ニ傍テ稍ク原野アリ故ニ名ク

立雲寺　同処ニアリ東本願寺派専念宗　本尊阿弥陀佛

朝柄　片野ノ南ニアリ　正税五百六石紀州田九領ナリ　土産　煙草ヲ出ス四方ニ鬻ク朝柄多婆姑ト称ス　本邑ヨリ粥見ニイタル海道大倭州吉野山上ニ詣ス路ナリ　此間ニ櫻峠ト云アリ西行櫻ト称ス花木所傳未詳方俗ノ称スル処ナリ

古江　朝柄ノ東ニアリ車川ヘ十十八丁松坂府ヨ

リ四里半　正税二百五十四石紀州田九領十リ神鳳抄云二宮五箇山御園廿町　外宮神領目録云五箇山御園綿十両絹四疋布等。

五箇篠山城址　朝柄ト古江ノ間ニアリ追手ハ朝柄ノ艮位ヨリ東ニ向テ登ル路アリ分明ナリ搦手ハ古江ノ東ヨリ登ル山上平坦ノ処篠多生メ蔚茂タリ其餘林樹生メ詳ニ記ニ難シ四壁突出メ崖嶮ク山頂ニ其遺址アリ旧ト国司北畠家ノ幕下野呂越前守歴代任セリ其後天正十年北畠具親甕ノ砦ヲ構フ処ナリ今ニ兵器及磁器等ヲ鑿出ス　五箇ノ名称ハ今所謂古江朝柄土屋東川色太ノ五箇ノ邑ナリ方俗五箇谷ト称ス

津留　古江ヨリ一里北ニアリ飯高郡界ナリ水涯ニ民居ス旅客舎茶鄽アリ旧図本谷飯野郡ニ隷レリ今本郡ニ属ス　津留川舟渉アリ大和州長谷街道ナリ即川俣河ノ下流ニメ櫛田川ノ水源ナリ　津留ノ名義ハ本郡波留ト同ク長谷街道河俣川ノ渉リノ津ロナルカ故ニ名ツク　正税百七十二石紀州田九領ナリ

上牧　津留ヨリ東七丁ニアリ田野ニ民居ス旧ト飯野郡ニ隷レリ今本郡ニ属ス和名類聚抄上牧下牧ノ郷ニメ牧ヲ比羅ト訓ス上牧中牧下牧津留各飯高郡ニ属セリ　今属邑中牧下

牧アリ牧三郷ト称ス中牧本邑五町東ニアリ
下牧今北牧ト称ス本邑ノ北ニアリ　正税三
百五十二石紀州田丸領ナリ　神鳳抄云飯野
郡牧御園是旧本郡ニアラスト云徴ナリ
牧城址　同処ニアリ園小四郎住セリ北畠家臣
ナリ
井内　上牧ヨリ三十一町東ニアリ小山ニ傍テ
田間ニ民居ス　正税三百八十六石紀州田丸
領ナリ　属邑林村本邑ノ二町東北ニアリ
西佐伯　本邑ノ東ニアリ
式内林神社　井ノ内林村ノ中間ニアリ　祭神
麓山祇神　相可上社ヨリ西一里　度會延経

神名帳考證云林神社木実木股神称御井神在
林村井内村西　度會正身神名帳再考證云林
神社地名直ク林村ト云井ノ内村ハ西ナリ
祀ル神前ニ見エタリ　今詳ニスルニ延経考
證ハ林神社ノ名ニ拠テ多氣郡林村ニアル処
ノ神社其地ニ拠リテ指ス又林ノ義ニ拠テ木
実木股神ヲ奉祀スル処トス正身再考證ハ林
神社ハ直ニ林村ニ在リト前證ニ従ヒテ異ナ
シ祭神ハ相鹿牟山神社ノ條ニ所言ノコトク
日本書紀第一巻ヲ引拠ノ五山祇ヲ出メ林神
社ハ麓山祇ヲ奉祀スル処ト云前ニ見ヘタリ
ト記スハ是ノ謂ナリ前考證ニ林村ノ名ニ寓

メ林神社ヲ合シ林ニ拠テ木炅神ヲ祭ルト云
ト牽強ナリ御井神ト方俗称スルニ竪ヲ此地
相可川ノ水涯ニアリ其水炅ヲ祀ルト誣ヘキ
ニイタレリ然レ圧後考證ニ日本書記五山祇
中ノ麓山祇ヲ此ニ祀ルト云ハ是ニ似タリ姑
ク従フヘシ式社案内記及勢陽雑記拾遺古屋
草紙合祭神木股神トスコレ前考證ニ倣ヒテ
異ナシト憶ヘリ然レ圧未其考ノ詳ニセサル
ニアリ猶暫ヘシ

佐伯

佐伯　井ノ内ノ巽位ニアリ　正税二百七十九
石紀州田丸領ナリ　土人傳源義朝ノ臣渋谷
金王丸居寓セシ遺蹟ナリ　俚諺日此地名ハ
弘法大師ノ姓氏ハ佐伯氏ナリ飯高郡丹生ニ
三年住シ玉フ圧其氏人隨身ノ此処ニ住セシ
ヨリ名ツケタルナルヘシト云今詳ニスル
ニ弘法太師丹生神宮寺及丹生神社創建ノ因
アリ故ニ佐伯ノ氏族ヲ以テコノ処ニ潜居ス
トイフハ臆断ナリ其徴ヲ得カタシ所謂田村
麿ヲ一志郡及飯高郡ノ田村ニ罵リ称スルカ
如シ又左典厩義朝ノ童金王丸ヲ所傳此地ニ
経歴ノコトナシ其徴ヲ詳ニセス土俗ノ謬傳ナ
ルヘシ

常楽寺　同処ニアリ東本願寺派専念宗　本尊
阿弥陀佛

中村　林村ヨリ三町東ニアリ佐伯ニ属セリ故ニ佐伯中村ト称ス本郡森庄中村同名アリ本邑ニ方俗山崎宗鑑居住セシト云傳アリ未詳本州ニ伊勢宗鑑ト諱名スルアリ此人若クハ經歷スル処トモ云ヘシ有編ニ載タリ

三足田　中村ヨリ五町東ニアリ　正税六百九十四石紀州田九領ナリ

四足田　三足田ノ四丁巽位ニアリ　正税千十三石紀州田九領ナリ　二足田三足田ノ名義未詳

相可　四足田ノ四町艮位ニアリ　正税六百十一石大神宮領紀州田九領入組ナリ　旧名相鹿延喜式或大鹿旧事紀古事紀或逢鹿ニ作レリ

式内相鹿上神社　同処西口ニアリ方俗上ノ宮ト称ス　祭神天児屋根命　相鹿年山神社ヨリ乾位ナリ一丁　度會延經神名帳考證云相鹿上神社天児屋根命姓氏録云大鹿首天児屋根之命之後也日本敏達紀云釆女伊勢大鹿首小熊女續日本紀云伊勢大鹿首東鑑云文治三年伊勢国散状介大鹿俊光散位大鹿薫重総大判官代散位大鹿国忠今在上相可村森中上宮度會正身神名帳再考證云相鹿上神社今相可村森ノ中ニアリ上宮ト称ス前ニミヘタリ今詳ニスルニ延經考證ニ相鹿上神社姓氏録

ヲ引テ相鹿大鹿相同シキニ擬テ大鹿首ノ始
祖ハ天児屋根命ナリト云ヲ用テ此神社ニ所
祭ハ天児屋根命ナリトス日本書紀及続日本
紀東鑑等ヲ引擬テ大鹿ハ今ノ相可ト称スル
ニ相同ク大鹿首ノ本貫ノ地ナルヲ以テ其祖
神ヲ祀ル処ナリト標セリ正身再考證前ニ従
テ異論ナシ案スルニ古事記敏達天皇巻云沼
名倉大王敷命坐他田宮治天下娶伊勢大鹿首
之女小熊子郎女生御子布斗比賣命次宝王亦
名糖代比賣王又旧事紀云渟中倉太珠敷尊敏
達天皇女伊勢大鹿首小熊女曰菟名子夫人生二
女長曰大娘皇女更名櫻井皇女少曰糖手姫皇
女更名田村皇女大鹿ノ此邑所住メ人ニシテ
大鹿後ニ相可ト轉スルヲ証トスベシ然ルトキ
ハ其遠祖ノ天児屋根命ヲ奉祀シ上神社ト称
スルノ謂真トスヘキナリ式社案内記祭神天
児屋根命トス前考證ニ従ヘリ勢陽雑記拾遺
中臣大鹿嶋命大香山戸臣命二座ヲ祀ルトス
勢陽俚諺此ニ従フ各非ナリ其故ハ相鹿上神
社延喜式ニ一座ト云、或ハ二座ニ填ルハ妄ナ
リ相鹿牟山神社二座ニ填ツ此ニ大鹿嶋命大
香戸臣命ヲ充ルハ前考證ニ天児屋根命大香
戸臣命ニ充ルモ穏当ナラス勢陽雑記拾遺ハ
大鹿嶋命ヲ大鹿相可ノ名ニ擬テ此ニ祀ルト

云ハ牽強ナリ従フヘカラス土人傳云此処ニ大神宮鎮座ヨリ仕奉ル旧家アリ瓶子屋ト称ス其家ヨリ毎例祭ニ瓶子ヲ献ス式アリテ度會郡山田ニ瓶子舘某ノ宅ヲ宿トシテ勤仕セリ今其裔村田某ト称ス此地ニ居セリト云フ此所傳其徴詳ナラストイヘトモ河村偏具著伊勢田饋聞書ニモ載タリ

千鳥瀬

本邑ノ西口上ノ神社ノ前路傍ニ細流アリ神社ノ灯籠ニ千鳥瀬ト彫メ此処ヲ標ス方俗傳云往昔西行上人伊勢斗藪ノトキ黄昏ニ及コヽニ到ル一ノ伴僧アリ宿ヲ求ニトメ此村ニ進ミ歩ム其便ヲ待𪜈遅ミ漸ク伴僧立帰テ上人ヲ呼喚ケレハ此流ヲ渉ニトス𪜈千鳥ノ声ヲ聞

はらきぬるゑをなふるあかりりの瀬越えてあふりつ旅寐こそすれ

此上人ノ咏トス上人ノ口碑ニ遺レリ

式内相鹿牟山神社

同処ニアリ札辻ヨリ巽位小山ニ座ス相可礒部寺ヨリ十一丁 方俗ボウ山ノ神ト称ス 祭神二座大山祇命中山祇命 度會延經神名帳考證云相鹿牟山神社二座中臣天児屋根命大香山戸臣神旧事紀云大山祇亦名正鹿山津見神摘大山与正鹿之字為大鹿称牟山牟麻音通土為中央与中臣同理古事紀加臣字顕其意祭主家公文抄云任料牟山

祢宜絹一疋在相。可村祢山神　度會正身神名
帳再考證云相鹿牟山神社二座相鹿ハ相可ノ
下畧其地ト射和トノ間ニ川アリテ四方ノ水
相落ル故ニ地名トス牟山トハ此下ニ守山神
社アルニ拠テ考ルニもろノ切むニテモル山
神ト云義ナリ日本紀第一巻ニ五ノ山祇ノ名
ヲ載テ軻遇突智ノ頭ハ大山祇身ノ中ハ中山
祇手ハ麓山祇腰ハ正鹿山祇足ハ䳄山祇ト成
レリトアヘハ此二座ハ大山祇中山祇ナリ次
ノ林神社ハ麓山祇ナリ又相鹿上神社ハ䳄山
祇ナリ䳄ハ假字ニテしハ水ノ義きハかしノ
切きノ濁畧日本紀磯輪上ノ磯城トナリシ例
ノコトシ水ノ上ハ山下ノ下ナル故ニ疋ノ化
スル処ト云相鹿ハ相可ニテ水ナレハ相鹿上
ハ即シギナリ又守山神社ハ正鹿山祇ナリ正
鹿ハ真坂ノ假字其守山ノ神社ハ今佐奈ノ神
坂ノ社是ナリ真坂ノ義合ヘリ此牟山神社モ
今猶相可村ニ在テ山ノ神ト称ス今詳ニス
ルニ延経考證相鹿牟山神社ノ名義ニヨリテ
延喜式ニ二座ニ填ルニ従テ中臣天児屋根命
及大香山戸臣神ヲ祀ルトス其牟山ノ名ハ牟
ト麻音通ス故ニ中央ノ上位ヲ中臣ノ名ニ合
シ同理トノ中臣ノ祖天児屋根命ヲ奉祀シ大
香ニ相鹿猶大山祇命ヲ正鹿山神ト云ニヨリ

大山ト正鹿ノ字。ヲ摘テ大鹿トス此ニ拠テ此
ニ神ヲ祀ル処トス注ナリ正身再考證ニ相鹿
ハ其地川流アリ水脈ノ相合フ処故ニ相川ト
ス牟山ハ次條ニ中山神社ニ例メモル山ノ義
ニメムロト畧セルナリ日本書紀五山祇ヲ標メ
此二座ハ大山祇中山祇命ヲ祀リ次條ノ林神
社ハ麓山祇相鹿上神社ハ鷂山祇守山神社ハ
正鹿山祇ヲ奉祀スル処ナリトイフ解ナリ考
ルニ牟山神社方俗山ノ神ト称スル処ニメ上世
ヨリモ傳習スル処ナルヘシ然レハ前證ニ上
為中央与中臣同理ニシテ天児屋根命ヲ祀ル
トシモ其徴ナシ大山正鹿ノ二字ヲ摘テ大香

ハ相可ニ合シ大香山戸臣命ヲ合祀ルト云フ
各牽強ナリ従ヒカタシ古事紀正鹿山津見神
ニ作ル日本書記正勝山祇ニツクル然レハ正
鹿ノミニ非ス若ハ正勝ト云ヰハ相鹿ニ過シ
ガタシ其杜撰知ヘシ正身再考證ニ所載合是
ナリ従フヘシ然レトモ相鹿上神社祭神ハ別
ニ論アリ其條ニ載ス牟山神社式社案内記ニ
祭神中臣大鹿島命大香山戸臣命二座トス稍
ノ考證ニ従ヒテ中臣ノ上祖大鹿島命ヲ合メ
二座ニ填ツ其徴ナシ古屋草紙及勢陽俚諺ハ
大山祀命ヲ祀レリトスコレ方俗ボウ山ノ神
ト称スルニ倣フトイヘ氏二座ニアラス勢陽

雑記ニ牟山神社ハ相可山ノ神ナリトイフニ従ヘルノミナリ本社ハ後世其地ヲ遺亡セシニ俗称ホウ山ト云ニ拠テ牟音ナルヲ以テ轉ノムヤマト前ニ称セシナルヘキヲ識リテ享保中ニ此地ニ定祀スル処ト必セルナリ猶再考證ニ拠テ大山祇中山祇命ヲ祀ル処ニ従フヘシ

磯部寺、同処ニアリ　此寺ノ門前林中ニ小祠アリ方俗磯宮或式内伊蘇上神社トス各非ナリ其故ハ倭姫世紀云活目入彦五十狭茅天皇廿五年丙辰春三月従飯野高宮遷幸伊蘇宮令坐又神名秘書云垂仁天皇廿五年丙辰三月自伊勢百船度會玉掇伊蘇国尓入座即建神服織社令織大神之御服麻続機殿神服社是也上ノ二説ニ拠テ飯野高宮ヨリ伊蘇宮ニ次第シテ遷幸ノ地ナリ神名秘書ニ伊蘇宮ハ神服社是也ノ文ニヨレハ本郡大垣内村服部麻刀方神社ノ地即神服機殿ニシテ伊蘇宮ノ跡ト称ヘキナリ然ルニ神名秘書裏書ニ伊蘇国伊蘇宮在多氣郡逢鹿村字ハ古宮本一此ニ拠ニ方俗此処ヲ伊蘇宮ノ旧址トシ享保十五年磯部寺ノ住侶及村民等ト昏議シ社祠ヲ厳重ニ経営シ二宮ト同クチ木鰹木ヲ掲テ磯宮ト誇リ称セリ故ニ後ニイタリ伊蘇宮ノ址ハ即伊蘇上神

社ヲ所置ト定メテ式社ノ列ニ入レリ猶礒部
寺ノ號アルモ此ニヨレリト謂フヘシ近世寛
政中ニ村民某其旧墟ノ遺亡センヿヲ患ヘテ
伊蘇宮旧址ノ碑碣ヲ建タリ其真ナラサルカ
故ニ神宮ヨリ禁止セラレ座埋シケルトナリ
此ヲ以テ其妄ナルヲ知ヘシ是神宮ノ盛挙賞
スルニ足レリ既ニ神名帳考證ニ神名秘書裏
書ナ引テ云伊蘇宮在多氣郡逢鹿村字古宮本
上相可村礒部寺ノ前森中ノ社ヲ云礒宮即伊
蘇上神社ナ配セリ是前人ノ非ニメ後人其非
ヲ傳習スル処ナリ此ニ拠テ考ルニ神名秘書
流布ノ本ニ裏書ノ存スアリ無アリ孰レ後人

ノ加毫スル処ニメ俗言ヲ挙テ書スルモ知リ
カタシ倭姫命世紀ノ裏書ト同ク取舎アリ然
モ古典ニアラス徴トシカタキナリ其旧典ニ
ヨレハ倭姫世紀云従飯野高宮迁幸于伊蘓宮
今坐支于時大若子命尓問給ス汝国名者何白
久答曰百船度會国玉掇伊蘓同止白久御塩濱
並林手奉支此宮尓坐旦此宮尓坐旦供進御水
右所御井支ト其次ノ文ニ填レハ度會伊蘇国
及御塩濱御井等此地ニアルヿナシイツレ海
瀬ノ地ニメ此ニ牽强スルニ合ハス猶神名秘
書神服社也トイフニ違ヘリ此次ニ拠テ今ノ
大垣内ノ神服織殿ヲ伊蘓宮ノ旧址ナト云ハレ

モ非ナリイヅレ。神服社ハ其時ノ伊蘓宮ニメ
大神織衣ノ神殿ナリ細注ニ従此処始在号伊
蕪宮ト云ハ前ノ度會ノ王摂伊蕪国尓入座ノ
トキノ神服殿ヲ始テ伊蘓宮ト称スル也此ニ
始テ称スルト云片ハ度會伊蘇宮ヨリ興リテ
此相可ノ地ニ伊蕪宮ノ名アルヘキナシ其本
文ヲ排斥メ稍ク後人ノ増加スル、如ノ裏書ヲ
是トスルハ東家ノ婦ノ顰ヲ倣ヲニ同シ論ス
ルニ不足僻説ナルハ明ナリ或ハ方俗此寺ヲ
指メ彼伊蘓宮ノ旧址ト称メ神宮寺ノ如ク惟
フハ大ニ非ナリ猶根倉村ノ根倉神社ノ次條
伊蘓上神社ノ條ニ詳ニセリ併考ヘシ、伊

蕪宮ノ名ヲ冒メ村民造立ス宮域ハ相可上ノ
宮入口鳥居中間ニ拝殿正面正殿又正面外宮
建ノ宮左右片ニ同作ノ社二區中間ニ鳥居左
ニ磯部並正面内宮建ノ社左ニ宝殿右ニ外宮
建小社二區各並座ス

西山　四足田ヨリ南ニアリ　正税三百四十四
石紀州田九領ナリ

矢田　旧中ノ北ニアリ　正税二百六十四石紀
州田九領ナリ

笠木　矢田ノ艮位ニアリ下田辺ヨリ南一里十
丁　正税六百九十四石紀州田九領ナリ　属
邑森出アリ　神鳳抄云笠服庄内宮一石異本

五斗九十二月又笠服御房外宮前野御園一斗
大歳御園笠服外宮神領目録笠服御園一斗
倭姫命世紀曰活目入彦五十狭茅天皇廿五年
丙辰春三月三日従飯野高宮遷幸于伊蘓宮令
坐中略倭姫命詔曰久南山末見給江波吉宮所
可在見申止詔弖御宮所乎覓尓大若子命乎遣
給支倭姫命若天照大神乎奉崇載小船尓乗給
弖御船離々神財並忌楯桙等乎留置弖従小河
幸行支中略従其所幸行川冬支其河水寒有支
則寒河止号支其処御船乎留給弖即其所仁御
船神社乎定給支従其所幸行支須時神笠乎服
給支其所乎加佐伎止号々支　今詳ニスルニ飯
野高宮ヨリ南ニ遷幸シメ伊蘓宮ニ坐シ又小川
ヨリ南ニ遷幸シ湯田川ヲ遡リテ田丸狭田及
田辺ヨリ笠木ニイタリ玉フ順途ナリ　笠木
ノ旧名笠服トス今轉メ笠木ニ作レリ　伊勢
旧蹟聞書曰神笠服玉フハ此処ニ雨ニ遇玉フ
ヲ云村中ニ倭姫命ノ小祠今尚アリ村老傳云
古昔旱魃アレハ此祠ニ雩ス心應アリト中世
以来ノ人多知サル処ナリ　今考ルニ雨ニ遇
テ御笠ヲ服玉フト云言ニ拠テ雩ヲ祈ル也
土羽　笠木ノ八町巽位ニアリ田丸府ヨリ西位
一里半　正税九百七十四石紀州田丸領ナリ
方俗笠木ノ土羽ト称ス志摩州鳥羽同名ナル

ナ以テ笠木ヲ冠タヲ称スナリ旧時ニ止羽ト填
タルナルヘシ
式内大神乃御船神社　同邑ニアリ東ノハシ森
中産神社ト同域ニ坐ス右方南向産神左方南
向御舟社アリ　祭神皇太神御船神　度會延
經神名帳考證云大神乃御船神社鳥石楠船神
世紀云寒河御船留給云其処ニ御船神社定給
支古事紀云鳥之石楠船神亦名謂天鳥船地名
止羽止島也在有尓郷止羽村　度會正身神名
帳再考證云世紀ニ其河之寒有支則寒河止号
其処御舟留給天其処尓御舟神社定給支トア
リテ御経行ノ地ナリ社ノ所在有尓郷止羽村

度會多氣両郡ノ交ト神名秘書ニアリ今鳥羽
トイフニ拠テ鳥石楠船ノ神ヲ祀ルト云ハ巧
ニ過タル説ナリ唯舟ノ止場ナルヘシ舟ノ呉
ヲ祀ルナルヘシ今此辺小川アリ上古ノ寒河
ナリ今里人笠木ノ鳥羽ト云此社ノ辺ニ鳥羽
茶屋トテアルハ相可射和ノ路ナリ當ニ二社
アルコト延賢神主摂社参詣記ニ記セリ此ニ
畧スト今詳ニスルニ延経考證ニ大神乃御船
神社ノ名義ニ拠テ倭姫命世紀ニ大神迁幸ノ
トキ寒河ニ御船留リ給ヒテ其処ニ御船神社
定給フト云文ニヨレハ古事記ニ鳥ノ石楠船
神ハ亦天鳥船ト名ク此ニ祭神ハ此御船ノ縁

ニ拠テ祭ルト云義ヲ含メリ故ニ鳥ノ石楠及
天鳥船ノ神名ニ拠テ其地ヲ止羽ト名ク止ハ
鳥ノ謂ナリト云解ナリ正身再考證ハ倭姫命
世紀ヲ引徴スルハ前考證ノ如シ神名秘書ニ
土羽村ハ度會多氣二郡ノ交ニアリト云鳥羽
トモニ鳥石楠船神ヲ配合スルハ巧説ニシテ
土羽ノ名ハ御舟イ止リ場ノ畧ナルヘシ故ニ
舟ノ㚑ヲ祀ルト云佳ナリ此社傍ニ鳥羽茶屋
アリ當処ニ二社アリ摂社参詣記ニ記セリト
釈セリ愚按ニ倭姫世紀云従其所幸行川尽支
其河水寒有支則寒河止号支其処御船弖留給
至即其所尓御船神社乎定給支皇大神遷幸ノ

順路ニ詳ニスルニ垂仁天皇廿五年三月飯野
高宮ヨリ度會伊蘇宮ニ坐メ南山ニ宮処ヲ覓
ニトテ度會郡小河村ヨリ狭田及田辺多氣郡
寒河ノ地ヲ歴テ御舟ヲ停ム処ニ此神社ヲ奉
祀ス処ナリ後號伊蘇宮ヨリ小河ニ船ヲ浮テ
水源ヲ探リ陽田川ヲ遡リ田丸ノ狭田及田辺
ヨリ此河流ヲ渉リ尽シ此処ヨリ笠木ニ到ル
ノ順次ナリ考證ニ古事紀ヲ引テ鳥石楠船神
及一名天鳥船ト記スルヲ此ニ徴メ其祭神ト
ス鳥石楠鳥船ニ拠テ止羽ト名起レリト云ハ
各牽強ニノ非ナリ鳥石楠船ハ皇大神所棄ノ
モノニアラス大神乃御船神社ト名ク何ノ石

楠船ヲ假ス〆足レリ猶土羽ト書ス止羽ニ非
ス再考證ニ此ヲ作ノ止羽ハ御舟ノ止リ場ナ
ルヘシト云鳥石、楠船神ノ祀ルト云ヲ排スル
ハ是ナリ止場ト塡ルハ臆斷ナリトイヘトモ
然ルヘシ神名秘書云御船社大神乃御船神
也前社在宇尓郷土羽村神祇本源御船社一座
大神御船神在宇尓郷、土羽村度會多氣両郡交
也此ニ拠レハ土羽ハ旧名ナリ既ニ神名秘書
ハ度會神主行忠著ス処正和五年度會家行淨
昏ニ〆正保四年度會延良後ニ延佳ニ作ル夜
合ノ本アリ既ニ正和中ヨリ土羽ノ字ヲ塡ル
処ニ〆其来ル久シ孝證ニ止羽ニ作ルハ牽強

猶度會多氣両郡ノ交也トイフハ旧本ニナシ
後人ノ加フルトコロナリ其故ハ延喜式ニ度
會ニ隷セリ今多氣ニ属ス此ヲ以テ強テ度會
ニ属[illegible][illegible]トスルトコロニシテ書ハナルヘシ
今古群ノ差ヒニシテ混駁スル処トイフヘシ
儀式帳ニ祭神大神御薩河神トノスルハ非ニ
シテ傳寫ノ誤リナリ御船神ニ従フヘシ内宮
儀式帳ニ云御船神社一処称大神乃御薩川神
形無倭姫内親王代定祝正殿一宇長七尺弘五
尺高八尺玉垣一重方各二丈坐地二町東南八
公田西ハ百姓家北ハ御刀代田右ノ社随破壊
之時国郡司以正税稲修造如件以前祝部等太

神宮司ト食任之移送伊勢国司ニ云云當地ニ二
社アリ度會延賢摂社参詣記ニ載ストイフハ
次條ノ年弥神社ニメ其號ニ詳ニセリ御船神
社年弥神社ノ外ニ村中ニ一小祠アリ方俗倭
姫命ヲ祀ルト云猶伊勢国旧蹟聞書云大神御
笠服玉フハ此処ニ雨ニ過玉フヲ云今尚村中
ニ倭姫命小祠アリ村老言フ古昔ハ旱魃アレ
ハ此祠ニ雩ス必ス験アリ中世以来ノ人不知
トコロナリト云フ憶フニ方俗ヲ襲習ニシテ
其倭姫命ヲ奉祀ストスト云ハ俗傳ナリ土羽茶
屋ハ東池上ヨリ上田邊ニイタル中間ニアリ
旅貨鬻一宇アリ本邑土羽ヨリノ出ル処ニ
シテ旅名ク田丸ヨリ相可ニイタル街道ナリ
御船神社ノ邊ニアラス本邑ニ二十町餘ヲ隔
テリ猶寒河ノ號ハ次條ニ詳カニス式社案内
記ニ祭神鳥石楠船神此考證ニ従カヘリ非ト
スヘシ

勢陽五鈴遺響多氣郡巻之二終

日本政府圖書
紙数六拾六枚
66
内閣文庫

日本政府圖書
紙數六拾六枚

国立公文書館
National Archives of Japan